

この手が届きそうな青空の下で

凜、蒼真、キャスリン、スーザン、レベッカ、陸、芽衣、鳴海、大和、ゼロが舞台上にいる。
何か言い争いをしている様子。

全員ストッ。モーション。凜と蒼真だけ明かり。

それ以外の人物は上手、下手に去る。

凜と蒼真、同時に語りだす。蒼真は途中から声のボリュームを下げていき、次第に凜だけが語る。

2人

私は何処にでもいるごくごく普通の人です。人付き合いは得意じゃないけど友達がいらないわけじゃありません。ダンサーになってニューヨークで踊るといふ夢があり、今スクールに通っています。生活するためにバイトして、3日に一度コンビニでちょっと高いデザートを買うのがご褒美な、どこにでもいるごくごく普通の人。それなのにどうしてこんな事になってしまったのか……。

雨の音がフェードイン。

凜
その日は一日ツイてなかったんです。朝から雨が降っていて憂鬱だし。お気に入りの傘が風にあお

られて折れちゃうし。ご褒美のコンビニデザートは売り切れてるし……。「嫌な事は踊って忘れよう」とびしょ濡れになりながらダンススクールに移動している途中でした。

雨の音が止まる。

凜

最近テレビをにぎわせているニュースがありました。殺人事件なのですが、巷ではその話題でもちきり。ですから彼が最初に私の前に現れた時、私は殺されるんだって思いました。勿論、彼は殺人犯などではなく犯人は別にいて、でも結局ややこしい事になるんですけど……。とにかく、彼との出会いは雨が降って憂鬱で、お気に入りの傘が壊れてしまった上に、ご褒美のデザートが売り切れていた、いわゆる最悪な日の事でした。

雨の音、再びフェードイン。照明少し明るくなる。凜、上手を向いて逃げようとする。銃声。凜、驚いて体を硬直させ、ゆっくり振り向く。蒼真の姿に気付き、尻餅をつく。

蒼真

鬼ごっこはもう終わりにしてもらおうか。

凜

・・・あなたは誰？

蒼真

俺は壊し屋だ。アンタを壊しに来た。

凜

壊し屋？

蒼真

気にするな。アンタには関係ない。

凜

関係ないって……。何で私を殺そうとするんですか!?

蒼真 人の話聞いてたか？俺は壊し屋だ。殺し屋じゃない。

凜 何が違うんですか。

蒼真 殺し屋は殺す。壊し屋は壊す。そのままだな。アンタにはしばらくの間動けなくなってもらおう。

凜 どうしてですか!?

蒼真 さあな。

凜 誰が依頼を？

蒼真 さあな。

凜 ・ ・ ・教える気はないという事ですか？

蒼真 俺はボスから命令を受けただけだ。

凜 なら！

蒼真 会話をして隙を伺っても無駄だぞ。

凜 別にそんなつもりじゃ ・ ・ ・。

蒼真 女の割には精神がタフだな。

凜 タフじゃありません!!ビビってます!!

蒼真 どんな強がり方だ。

凜 強がってません!!

蒼真 ・ ・ ・アンタ人から素直じゃないって言われるだろ？

凜 私は素直です!!

蒼真 もういい。……今日は朝からツイてなくてな。とっとと終わらせて帰らせてもらおう。

凜 殺すんですか？その銃で。

蒼真 何度も言わせるな。俺は壊し屋だ。さあ、動けなくなってもらおうか。

蒼真、凜に近づく。凜、上手に去ろうとするが止まる。

蒼真 その先は行き止まりだ。諦めるんだな。

凜 そんな……どうして私が？

蒼真 さあな。

蒼真、更に近づく。凜、蒼真の横をすり抜けて下手へ逃げようとするが、蒼真につかまれる。

凜 誰か、誰か助けて!!

蒼真 これも仕事なんぞな。

凜 お願いします。助けて下さい。

蒼真 せめて痛みは最小限にしてやるよ。

蒼真、凜を引き寄せる。凜の悲鳴。

同時に一番大きな雷の音。2人、上手と下手に吹き飛ばされる。

上手、下手にそれぞれが立ち、お互いを見る。音楽。

音楽がかかると2人その場に倒れる。スクリーンに題字。

キャスト紹介。それに合わせてキャスト一人一人が入って来る。

オープニング動画が終わると再び雨の音。リンがゆっくり立ち上がる。少し遅れてソウマ。

リン手に何故か銃があるのに気付きソウマに向ける。

リン
動かないで下さい!!

ソウマ
いつの間に銃を!?

リン
もうやられっぱなしじゃないですからね!!大人しくするんです!!

ソウマ
俺に銃が効くとも思ってる……の……か……。

2人何か違和感があり、お互いがお互いの顔をよく見る。

2人
わー!!

リン
何で何で!?どういう事どういう事!?

ソウマ
アンタ俺に何をした!?

リン
それはコッチのセリフです!!これが壊し屋の仕事ですか!?

ソウマ そんなわけないだろ。バカかアンタは。クソツ!! 自分にバカって言っちゃまった!! . . . アンタは俺じゃないだろ!?

リン 一人でパニくらないで下さい!!

2人、睨みあう。やがて肩の力を抜き、

ソウマ 俺 . . . だよな?

リン 私 . . . ですよね?

ソウマ って事は俺はアンタの顔なんだな?

リン あの、私も?

ソウマ ああ。

リン . . . 魂が入れ代わった?

ソウマ バカな!?

リン だってそれしか考えられないじゃないですか!! さっきの雷のショックですよ!!

ソウマ よーし、ならもう一回雷に当たりや戻るな!?

ソウマ手を天に掲げる。

リン やめて下さい!!今度は死ぬかもしれないんですよ!?

ソウマ だからって女で生きるのは御免だぞ俺は!!

リン 私だって嫌ですよ!!

ソウマ クソツ!!仕方ない。とりあえずアンタの家に行くぞ。

リン はい!?

ソウマ もうすぐここに仲間が来る。発見者を装ってアンタの救急車を呼ぶ為にな。

リン そういうアフターフォローがついているんですね。

ソウマ こんな所を見られる訳にはいかない。行くぞ。

ソウマ、リンの腕を掴んで下手へ行こうとする。

リン いや、でもいきなりそんな!!

ソウマ いいから来い!!

ソウマ、リンを強引に連れて下手へ去る。リン途中で銃を落としてしまふ。しばらくして大和がセリフを言いながら入って来る。

大和 アニキ。……アニキ?終わりました?……アニキ?

大和、見渡すが誰もいない。

大和 あれ？場所間違っていないよな……。

大和、辺りをウロつく。蒼真の銃が落ちているので拾う。

大和 これは……。まさか返り討ちに!?

大和、急いでケータイをかける。

舞台後方、下手よりキヤスが黒いフード付きのマントを羽織って入って来る。ケータイに出るキヤスリン。

キヤス 私よ。

大和 あ、大和です!!

キヤス 四朗は!? 四郎はすぐ戻って来る!?

大和 あの、それが……居ないんですよ。
キヤス は?

大和 アニキが居ないんです。

キヤス 居ない？ ミッション達成出来たから先に帰ったとか？

大和 それがターゲットも居ないんです。

キヤス は？

大和 それで現場にいつもアニキが使ってる銃が落ちてて、それで、

キヤス 四朗はどこに行ったのよ!?

大和 分かりません!!

キヤス ターゲットは!?

大和 分かりません!! . . . あ!!

キヤス 何!?

大和 今回のターゲットって若い女でしたよね!?

キヤス それが何!?

大和 もしかしてアニキ、その女に情が移って二人で一緒に

キヤス それ以上しゃべったらアンタの首90度回して背中を見えやすくするわよ？

大和 す、すみません!!

キヤス ターゲットの自宅は教えたわよね？

大和 はい。

キヤス だったらまずは確認してきなさい!! スカポントン!!

大和 はい!!

大和、下手に走り去る。キャスリン、上手後方を向いて、

キャス レベッカ!! スーザン!!

上手後方よりレベッカとスーザンが走って入って来る。

スーザ お呼びでしょうか。

キャス 四朗が担当しているミッションにトラブルがあったらしいわ。

レベ 四朗さんのミッションにですか？

キャス 今大和がターゲットの自宅に向かっている。あの子一人じゃ役に立たないでしょうから、あなた達も行って来てちょうだい。

スーザ 具体的には何を？

キャス 四朗の行方を捜してきて。

レベ ターゲットはどうしますか。

キャス 二の次よ!! まずは四朗がどこにいるのか知るのが先決!!

2人 かしこまりました。

レベッカ、スーザン上手後方に走り去る。

キヤスリン、客席の方を向いて、

キヤス ああ、四朗・・・どこへ行ってしまったの？あなたの姿が瞳にうつらないこの時間は一秒がなんと

長く感じる事でしょう。こんなホエマーな自分ちよつと好き・・・それにしてもターゲットの女。もし四朗の事を誘惑なんてしてたら・・・殺すわ。

キヤスリン、下手後方に去る。スクリーンに凜の部屋。

薄暗い照明に変化。下手からソウマリが入って来る。

リン ちよつと勝手に入らないで下さい!!

ソウマ、客席側にある窓の近くに移動し外を確認した後、カーテンを閉める。

リン 勝手に閉めないで下さい!!

ソウマ さて、今後どうするか考えるぞ。

リン え？

ソウマ 一番は魂が戻る事だが、方法が分からない。

リン ええ。

ソウマ となると、しばらくの間、俺が組織に狙われる事になる。

リン 事情を話して一端中止にしてもらう事は出来ないんですか？

ソウマ 魂が入れ代わったなんて話、信じるはずないだろう。

リン 私の友達なら信じてくれると思いますけど。

ソウマ そいつは愉快的な友達だな。だが、組織の奴等はそんなに甘くないぞ。

リン じゃあ。

ソウマ 痛い思いをするのは御免だからな。やられるつもりはない。だが女の体でどこまで出来るか。

ソウマ、腕を触ったり、太ももを触ったりお尻を触ったりする。

リン ちょっとどこ触ってるんですか!!

ソウマ なかなか良い筋肉のつき方だな。アンタ何やってるんだ？

リン 一応ダンサーですけど。

ソウマ ダンサーか。どうりで。

リン 私の体を守ってくれるって事ですか？

ソウマ 皮肉な話だな。

リン ありがとうございます。

ソウマ だからといっていつまでも落ち着かない毎日を送るつもりはない。何とか依頼者を見つけ出して組織への依頼をキャンセルさせよう。

リン 依頼者……本当にいるんですね。

ソウマ 当たり前だろ？ じゃなきゃ俺達がわざわざ動かない。

リン そうですか……。

ソウマ どうした？

リン ……それって私、誰かに恨まれてるって事ですよね。

ソウマ だろうな。

リン 普通に暮らしてきたつもりなんですけど、壊し屋に依頼する程誰かに恨まれてたなんて……。
ソウマ 人なんて多かれ少なかれ誰かに嫌われてるモンだろ？ 理由もなく生理的に受け付けないうって奴もいるんだ。そんなに気にすることもないだろ。

リン ……それってフォローですか？

ソウマ 事実だ。ま、そういう訳で明日からアンタを恨んでる奴を探すぞ。

リン 明日から!?

ソウマ ああ。

リン でも明日はダンスのレッスンが……。

ソウマ アンタな、状況分かってるのか？ダンスどころじゃないだろう。

リン 近々コンクールがあるんです!! 私今回にかけてるんです!!

ソウマ その体で出られる訳ないだろ？

リン それは!!

ソウマ 気持ちは分かるが・・・いや、正直分かんが、お互い元の状態に戻る事を優先しないか？

リン ……はい……。

大和、舞台上手後方から入って来る。

ソウマ 当面はアンタの体は俺が守る。約束する。俺達2人、元の生活に戻れるまでは運命共同体だ。

リン ……分かりました。よろしくお願いします。じゃ、暗いのもあれなんで明かりつけますね。

リン、部屋のスイッチの前へ移動。

ソウマ 待て!!

ソウマの制止の前にリン明かりをつけてしまう。大和が反応。

リン え？

ソウマ ……アンタなあ……。

ソウマ、リンを睨みながらもカーテンを少し開けて外の様子を伺う。
大和が居ることを確認しすぐに戻す。

リン どうかしたんですか？

ソウマ 組織の奴が外にいる。

リン え!?

ソウマ 大丈夫アイツは新人だ。……とはいえ、誤魔化す必要があるな。アンタ行ってきてくれ。

リン 私が!?

ソウマ 俺がこの姿で行くわけには行かないだろ。

リン でも何を話せばいいんですか？

ソウマ、リンの内ポケットから小型の無線機を取り出す。

ソウマ 無線機だ。これを耳につけてろ。指示は俺が出す。

リン こんなんで上手くいきますか!?

ソウマ 顔は俺なんだ。そうそうバレないだろ。

リン でも!!

ソウマ 変に時間が空く方がヤバい。さっさと行け。

リン そんな!!

ソウマ リンを強引に下手へ押しやる。ソウマ直前に

ソウマ アイツは新人だが変なところで勘がするどい奴だ。気を付けてな。

リン 何で直前になってそういうこと言うんですか!!

ソウマ 行け!!

ソウマ、リンを押し。リン下手へ去る。ソウマセンターへ移動。カーテンを少し開けて外の様子を
見る。リン、後方下手より入って来る。

大和 アニキ!!

リン、片手を少し上げて応える。

ソウマ そいつの名前は大和だ。アイサツを返せ。

リン こんばんは、大和さん。

大和 え？

ソウマ さんはいらぬい!! 「よお、大和!!」でいい。

リン よお、大和。

大和 よおじゃありませんよ!! どうしたっていうんですか。ターゲットと居なくなつたと思つたら一緒に

部屋にいるなんて!!

ソウマ 「いろいろあつてな」

リン いろいろあつてな。

大和 まさかターゲットにホレたなんて言うんじゃ!!

リン やめて下さい!!

大和 え!?

リン あ、いえ。．．．そんなわけないじゃないですか。．．．ないじゃないか。

大和 どうしたんです？

リン 別に。

ソウマ もういい、アンタは俺の言う事を繰り返せ!! 「今は詳しい事は話せないが」

リン 今は詳しい事は話せないが

ソウマ 「すぐにミッションを遂行出来る状況じゃなくなつた」

リン　すぐにミッションを遂行できる状況じゃなくなったの。

ソウマ　「問題が解決次第実行に移す。それまで時間をくれ。」

リン　問題が解決次第実行に移す・・・え!?

大和　え!?

ソウマ　とりあえず言っとけ!!

リン　とりあえず言っとけ!!

大和　何を!?

ソウマ　バカ違う!!

リン　バカ違う!!

ソウマ　繰り返すな!!

リン　繰り返すな!!

大和　ええ!?

ソウマ　落ち着け!!

リン　落ち着け!!

大和　はい!!

ソウマ　お前だ!!

リン　お前だ!!

大和　はい!!

ソウマ ……俺が悪かった。少し冷静になろう。とりあえず時間を稼ぐためにも今は、

大和 あの!!

リン な、何？

大和 アニキ……ですよね？

リン え？

大和 あ、いえ……。具合でも悪いんですか？さっきから様子がおかしいですけど。

リン べ、別に大丈夫よ？

大和 何でちよいちよいオネエなんですか。

リン えっと……。

ソウマ 答える必要はない。無言でやり過ごせ。

大和 教えてください！一体どうしたって言うんですか!?

リン こっちの世界に目覚めたのよ!!

ソウマ コラッ!!

大和 目覚めたって……まさか……。

リン だから放っておいてちょうだい!!

ソウマ ほっとけるか!!

大和 あの俺、その事ボスにどう報告すればいいですかね。

ソウマ 分かった。今行く!!説明するから!!

リン あら、あなたこうしてみると意外とカワイイのね。

大和 え!?

リン いらっしやい。楽しい事しましょうか。

大和 すぐに報告してきます!!

ソウマ 大和ㄱ!!

大和、急いで上手後方に去る。ソウマ膝をつきうなだれる。

リン、下手後方に去り下手から入って来る。

リン 何とか誤魔化して来ました!!

ソウマ 社会復帰が難しくなりそうな誤魔化し方はやめてくれ。

リン そんな事言ったって仕方ないじゃないですか。只でさえいっぱいいっぱいなのに。

ソウマ それは分かるが。

ピンポーンと呼び鈴が鳴る。玄関の方を向いた後、顔を見合わせる2人。

リン ・ ・ ・ 他の壊し屋ですか!?

ソウマ 代わりの奴が来るには早すぎる。可能性は低いな。

リン　だとしたら鳴海さんか……。

ソウマ　鳴海？

リン　私に通ってるダンススクールのオーナーです。今日こんな事になって無断でレッスン休んじやったので。

ソウマ　だからってわざわざ家まで来るか？

リン　それは……。

ピンポーンと再び呼び鈴。

リン　お願いします!! 誤魔化して下さい!!

ソウマ　俺が!?

リン　さっきは私が助けたじゃないですか!!

ソウマ　助けたって言えるのかアレで!?

リン　とにかくお願いします!!

リン、ソウマを下手の方へ押しやる。

リン　ちなみに、向こうは勝手に私と婚約したつもりなので馴れ馴れしいですけど体だけは守って下

さい!!

ソウマ 何で直前になってそういう情報を!!

リン 行って下さい!!

リン、ソウマを押し。ソウマ下手へ去る。

リンは近くにあった毛布で体を隠す。下手から鳴海の声が聞こえる。

鳴海 はあい、はい、はい、はい!!いるし、いるし、いるし!!どうしたの、どうしたの、どー

したの!?!子猫ちゃんが無断でレッスン休むなんて!!考えられないでしょ!!世紀末でしょ!!アルマゲドンでしょ!!アルマゲドン!!

鳴海、セリフ言いながら入って来る。上手袖付近まで移動。

遅れてソウマが入って来る。毛布にくるまって隠れているリンを見つけて驚く。

鳴海 ・ ・ ・ 何かな、その物体は？

ソウマ せ、洗濯物だ洗濯物!!

鳴海 洗濯物・ ・ ・ 。

ソウマ 急に来るからさ、慌てて隠したんだよ。

リン毛布の中で咳払いをする。驚いて周りを見渡すソウマと鳴海。

鳴海 今オッサンの咳払いが聞こえなかった？

ソウマ そうか？

ソウマ、毛布の近くへ移動し、足で毛布を軽く蹴る。

鳴海 まあいいや。それより子猫ちゃ〜ん!! どうしたっていうんだい!? 何も言わずにレッスン休むなんて!! コンクールに向けて今が一番大事な時期だってわかってるはずでしょ!? 勿論僕はいいけどね!! 優勝出来なきゃ結婚が近くなるわけだし!!

ソウマ ……どういう事だ？

鳴海 ん？

ソウマ あ、いや。ええそうですね!! レッスン休んですみませんでした。体調がすぐれなくて。

鳴海 それだけですか？

ソウマ は？

鳴海 あ、いやいや。心配だね〜。カゼかな〜？

ソウマ すぐ治ると思うんだが、ただ、皆にうつすといけないだろ？ 2、3回レッスンに行けないかもし…

リン、再び咳払い。驚いて周りを見回す鳴海。

ソウマ 極力早めに行けるようにするからさ、悪いな。

鳴海 そうかく。まああ仕方ないね!! 寂しいけど待つし!! 僕、ずっと待ってるし!!

ソウマ おお、そうしてくれ!!

ソウマの返事後、静寂。白々とした間が流れる。

ソウマ ・・・・用済んだろ？

鳴海 え!?

ソウマ すみません!! 熱があつてボクっとしてしまつて!! もう休ませてもらつていいですか？

鳴海 何なら僕も一緒に・・・

ソウマ いいから帰れよ。

ソウマ、鳴海のセリフの途中で強引に下手に押しやる。鳴海、下手に去る。

リン、毛布を取って、ソウマの近くに。

リン 言葉使い悪すぎません!?

ソウマ 仕方ないだろ、アンタがどんなしやべり方するなんて知らないんだから。

リン 私は基本敬語です。

ソウマ まあいいじゃないか。何とか誤魔化せたんだし。

リン あ、でも確かに考えようによってはこういう対応してもらった方が諦めてくれるかもしれません。

ソウマ は？アンタ等恋人同士じゃないのか？

リン 違います!!婚約は向こうが一方的に!!

リンのセリフの途中で袖から鳴海の声。

鳴海 そう、そう、そう、そう!!忘れてた!!スッポーンと忘れてた!!

リン、慌てて毛布をソウマに渡し、2人毛布を被る。

毛布の片方にはソウマの頭が。もう片方にはリンの足が出る。

その状態になってから鳴海が入って来る。

鳴海 度々ゴメンね、子猫ちゃん。え!?

鳴海、長くなった凜を見て固まる。

ソウマ どうした？

鳴海 えーとまず・・・床で寝ると起きた時体痛くするからやめた方がいいよ？

ソウマ そうですね。

鳴海 それからその・・・胴長くない？

ソウマ 目の錯覚だろ。

鳴海 そうね。そうねってというか、そうであって欲しいというのが本音だね。

ソウマ で、どうしたんだ？

鳴海 あ、例の約束をもう一度確認しておこうと思って。

ソウマ 約束？

鳴海 忘れたの!? 次のコンクールで優勝出来なかったら僕と結婚するって言ったじゃないか!!

ソウマ ああ、アレね。勿論喜んでお受けいてててて!! 痛ーよ!!

鳴海 え!?

ソウマ あ、いや。その話は勿論いてててて!! 何だよ!!

鳴海 どうしたんだい!?

ソウマ えーと、今頭痛がヒドイのでその話はまた今度という事で。

鳴海 ー。残念だけど、分かった!! じゃ、早く治してね、子猫ちゃん!!

鳴海、決めポーズを取りながら下手へ去る。毛布から出てくるリン

リン 勝手に話を進めないで下さい!!

ソウマ 俺は良かれと思っただな。

リン 何度も言いますが私と鳴海さんは恋人じゃありません。一方的に言い寄られてるだけです!!

ソウマ だがアイツは自信満々だったぞ。

リン 私の親が認めてるんで。鳴海さんがお金持ちだから。

ソウマ 金持ち?

リン 鳴海財閥の御曹司なんです。

ソウマ ・ ・ ・ 道理で我儘坊ちゃんって感じのオーラが出まくってるわけだ。

下手から鳴海の声が聞こえる。

鳴海 メンゴ、メンゴ、メンゴ、メンゴ!!

リン慌てて毛布を被る。ソウマが頭だけ出す。

が、ソウマは仰向けなのに対し、リンはうつ伏せに寝てしまう。

鳴海 そんなに具合悪いなら薬買って来ようか、薬局ごと、え!?

鳴海、体がねじれてる凜の体を見て固まる。それに気づくソウマ。

ソウマ 前、前、前、前!!

ソウマの声にリン足を客席側に移動させる。上半身と下半身が90度になる。

ソウマ 逆、逆、逆!!

リンその声に今度は舞台後方に足を移動させる。

ソウマ 違う向きが!! 回れ回れ!!

リンその場でグルグルと回る。

ソウマ ストツッブ!!

リン止まる。何とか2人共仰向けの状態になる。シーンとした間。

ソウマ ・ ・ ・ ヨガです。

鳴海 いやいやいや!!

ソウマ 心配ありがとな。もう寝るから今日はこの辺で。

鳴海 うん。僕も帰って寝ようかな。 ・ ・ ・ じゃあ ・ ・ ・ 。

鳴海、ゲツソリして下手へ去る。毛布から出てくるリン

リン 誤魔化せました!?

ソウマ アイツ、トラウマになるんじゃないか?

リン とりあえず鳴海さんの事はおいというて、これからの事を考えないですよね?

ソウマ ああ。魂を戻す方法か ・ ・ ・ 。

リン あの。

ソウマ ん?

リン 私に個人的な恨みがあるわけじゃないですよね?

ソウマ 俺がか? まあな。

リン
じゃ、じゃあさつき言った通り、まずは依頼をキャンセルさせる事を優先させませんか？その方が落ち着いて動けると思っています。

ソウマ、何も答えずリンをジッと見る。

リン
・・・何ですか？

ソウマ
アンタなりに必死ってわけか、解決の順番を間違えるわけにはいかないもんな。

リン
それは・・・。

ソウマ
いや、感心してるんだ。良い度胸している。・・・分かった。依頼者探しから始めよう。

リン
本当ですか!? ありがとうございます!!

ソウマ
礼は必要ない。さつき言ったろ。当面は運命共同体だ。

リン
はい!! それでは今日はもう休みましょう!!

ソウマ
と、その前に風呂に入りたい。風邪ひくわけにはいかないからな。

リン
お風呂!? なら目隠しして下さい!! 体は私が洗います!!

ソウマ
大丈夫だ。こんなデコボコの少ない体に興味はない。

その瞬間、リンがソウマの首をグキツ!! 気を失うソウマ。その場に倒れる。

リン いったいこれからどうなるの……。

リン、ソウマの体を引きずりながら上手へ去る。

照明変化。スクリーンに壊し屋の本部。

舞台後方、下手からキャスリン、上手から大和。

キャス どうだった!? 四朗は!? 四朗はいたの!?

大和 はい。ターゲットの部屋にいました。

キャス 無事なの!?

大和 身体的には無事ですが、精神的に無事と言えるかどうか……。

キャス どういう事!?

大和 自分もどう説明すればいいのかわかりません。ただアニキはターゲットを守ってるような感じでしたけど。

キャス 何で四朗が!?

大和 それはわかりませんが……。

キャス ああ!! 四朗!! あなたは一体どうしてしまったの!? 私がこんなに心配しているというのに。

罪よ!! 罪な男よ、あなたは!! ああ、四朗。早くあなたに会いたいわ!!

大和 今、会うのはどうかと思いますけどね。

キヤス でも大丈夫。居場所が分かったからスーザンとレベッカを向かわせるわ。あの二人なら連れ戻してくれるでしょ。

大和 あ、なら!!ターゲットの壊しは僕に任せてくれませんか!?

キヤス は?

大和 アニキの代わりに僕が!!

キヤス かんらからから。笑わせないで。大和が四朗の代わりですって?坊やの出る幕じゃないのよ。

大和 いつまでも新人扱いしないで下さい!!

キヤス アンタには初ミッションを与えてるでしょ。ちゃんとそつちを片付けな。

大和 ガキの膝をすりむかせるなんて小つちやな仕事、何で僕が!!

キヤス 小つちやいって言うなら尚更だよ。アンタに任せてからもう二週間経ってるんだよ?

大和 だから報告したじゃないですか。ターゲットが今家族旅行で海外に行ってるんですよ。

キヤス それなんだけどね。本当なのかい?

大和 え?・・・何がですか?

キヤス ・・・・まあいいさ。とにかくアンタは余計な事しなくていいの。分かった!?

大和 ・・・・はい。

キヤス ああ四朗!!四朗!!私の四朗!!

キヤスリン、下手に去って行く。

大和 どうして認めてくれないんだ。僕は……今の僕ならアニキにだって勝てるのに!!

次第に暗転。(大和は暗転中に上手へ去る)

SE

次のニュースです。千葉県船橋市の駅付近で女性が体中から血を流して倒れているのを駅係員が発見しました。女性は病院に運ばれましたがまもなく死亡。警察によりますと一連の殺人犯と同様の手口で、するどい刃物で斬りつけられたような傷があり、無差別殺人の可能性が高いとして付近の住人に注意を呼び掛けている。

砂嵐の音。しだいにフェードアウト。明かりがつく。

下手からリンとソウマが入って来る。誰かを待っている様子。

ソウマ さっき誰に電話してたんだ？

リン 友達です。同じダンススクールに通ってる。

ソウマ 同じスクールに？それってライバルじゃないのか。

リン そうですね。ライバルであり、友達です。

ソウマ 俺には分からない感覚だな。

リン　ですよね。この世界にいないと分らないかもしれません。

ソウマ　で、その友達とやらに会ってどうするつもりだ？

リン　とりあえず現状を話して協力してもらいます。

ソウマ　何!?

リン　昨日いろいろ考えたんですけど、やっぱり誰かに恨まれるような心当たりがないんです。でもそれ

は自分が気付いていないだけで、客観的に見たら恨まれて当然の事をしてるのかもしれない。

ソウマ　それを友達に聞こうってのか？

リン　はい。

ソウマ　俺の事も話すつもりか？

リン　そのつもりですけど・・・。

ソウマ　信じてくれるといいがな。

リン　はい、あの子なら信じてくれるはずです。

ソウマ　そいつは愉快的な友達だ。

芽衣が入って来る。凜に手を振りながら近づく。

芽衣　凜!!昨日どうして休んだの!?!もうすぐコンクールなんだよ!?

芽衣が、凜の手を握る。

ソウマ ちよっ!! いや、俺だから!! 待て!!

芽衣 え?

ソウマ、芽衣の手を離す。

ソウマ アンタ、早く説明しろ。

リン そんなに振り解く事ないじゃないですか!!

ソウマ いいから早く。

リン ・ ・ ・ 芽衣、あのね。

芽衣 え? 誰ですか?

ソウマ ほらな。こうなるのは分かりきった事だろ。

リン 驚かせてゴメン。でも落ち着いて聞いて欲しいの。 . . . 芽衣。実は私とこの人ね、昨日、魂が入れ替わっちゃったの!!

芽衣 ウケる!!

ソウマ ウケるって何だよ!!

リン この人は壊し屋で、私に数日間動けなくさせる程度の怪我を負わせる為に雇われたらしいの。

芽衣 (笑いながら) うん。

リン 昨日、レッスンに行こうとしてる途中で襲われたんだけど、雷に撃たれて……多分そのショックで入れ替わったんだと思う。

芽衣 (笑いながら) うん。

リン まずはこの人にそんな依頼をした人を見つけてキャンセルさせた後、魂を戻す方法を探そうと思っ
て。

芽衣 あははははははははは!! あゝ、やっぱり凜は外さないね。じゃ!!

2人 コラコラコラ!!

芽衣 何?

ソウマ アンタ、この話聞いてよく帰れるな。

芽衣 え? だって充分笑わせてもつらたよ?

リン 別に笑わせる為に呼んだんじゃないんだけど。

芽衣 じゃ何?

リン 多分私に恨みを持った人が今回の依頼をしたんだと思う。でも誰に恨まれてるのか分からなくて……
協力して欲しいの!!

芽衣 いいよ。

ソウマ 軽いな!!

芽衣、リンの方をじっと見る。

リン な、何？

芽衣 このオッサンの中に凜が入ってるんだ。

ソウマ オッサン言うな。

芽衣 どう？男の人の体の中って。超ウケる感じ？

リン ちよつとどう答えればいいのか分からないけど、笑ってる余裕はないかな。

芽衣 だよね。ウケる。

ソウマ 本当に愉快的な友達だな。

芽衣 でもさー、凜にとって今回のコンクールってラストチャンスでしょ？大丈夫なの？

リン うん……。分かってる。

ソウマ ラストチャンス？

リン無言でうなずき下を向いてしまう。

芽衣 鳴海さんは知ってます？

ソウマ 昨日会った。オーナーなんだろ？

芽衣 凜の事凄く気に入ってて、実家の両親に勝手にアイサツに行ったらしいんです。その時、結構高価

な贈り物したらしくて、今度のコンクールで優勝出来なかったらダンサーの夢は諦めて鳴海さんの嫁になれて……。

ソウマ

とんだ親だな。

芽衣

まあ、ある意味凜の事を思ってるのかもしれないけどね。生きる上でお金は重要ですから。

ソウマ

生きる為に生きる生き方はどうかと思うがな。

芽衣

大丈夫ですよ。環境に慣れてしまえば新しい夢は自然に出来るでしょうから。

ソウマ

・ ・ ・ 成程。どうやら単に愉快なお友達ってわけじゃなさそうだな。

芽衣

凜は親も鳴海さんも見返すつもりで頑張ってたんです。だから昨日いつもちゃんと来る凜が練習に

来なかったのが心配で……。

リン

ゴメンね。

芽衣

ううん。こんな面白い事なら大歓迎だよ!!

リン

そ、そう……。

芽衣

で、凜が誰かに恨まれてる可能性だけど、本当に心当たりないの？

リン

うん。

芽衣

本気で言ってる？

リン

え？

芽衣

だとしたら相当危機感無さすぎ。いるじゃん。怪しい人。

リン

誰？

芽衣 例のストーカー!!

リン ああ!!

芽衣 ああつて普通真つ先に疑うでしょ。

リン でもあの人は何の接点もないよ?話もした事ないし。

芽衣 甘い!!甘いわ凜、あまあまよ!!あーゆー人たちはね、頭の中で勝手にストリーを作るものなのよ!!それも自分の都合の良いように!!今じゃあのストーカーの中では凜と付き合ってる事になつてもおかしくないんだから!!

ソウマ 詳しいな。

芽衣 で、ストーカーはラブラブしたいのに凜が冷たい態度をとるから愛が憎しみに変わって・・・つてなパターンよきつと!!

ソウマ 詳しいすぎるな。で、そのストーカーとやらには今までどんな被害にあってるんだ?

リン 特に何も。手紙もらったり花束もらったりするくらいで・・・まあ、少し後をつけられた事はありましたけど。

芽衣 ほら!ストーカーよ、ストーカーなのよ!!

ソウマ 何でちよつと半笑いなんだよ。

芽衣 とにかく、そのストーカーが怪しいのは間違いないんだから!!とりあえず捕まえて聞くだけ聞いてみたら?

リン うん・・・でも、そうそう都合良く会えるかな?

芽衣 大丈夫!!なんてたって向こうはストーカーよ!?この辺ウロウロしてれば勝手に後をつけて来るって!!

リン 何でちよつと半笑いななの?

芽衣 さ、まずはこの辺をウロウロしてみましようか。

芽衣、ソウマを見る。

ソウマ 俺かよ!!

芽衣 だって姿は凜なんだから仕方ないじゃないですか。

ソウマ しかし……。

芽衣 依頼者を見つけたいんですよね?

ソウマ いや、俺は別に……。

リン え!?

リンの反応にソウマ顔を向ける。

リン だって協力してくれるって……。運命共同体だって……。

ソウマ ……あーもー!!分かったよ。協力するよ!!

芽衣 (笑って) ありがとうございます!!

ソウマ 言っとくがアンタを楽しませる為じゃないからな。

芽衣 それじゃこの辺を適当に歩いて下さい。しばらくしたら現れると思いますから。

ソウマ そう簡単にいくとは思えないが・・・。

ソウマ 舞台後方へ移動し、上手から下手へはける。

リンと芽衣は舞台前面でソウマの動きを見ている。

ソウマ 下手から上手に移動。リンと芽衣、残念がる。ソウマ 上手から下手に移動。

リン やっぱりの作戦ムリがあるんじゃない？

リンのセリフの途中でソウマ 下手から上手へ。ソウマの後方には陸がついて来る。

芽衣 いた!!今誰かいた!!

リンと芽衣「キヤアキヤア」する。

ソウマ、再び上手から入って来て。ピッタリ後をついてきた陸をセンターで止める。

ソウマ お前がストーカーか!?

陸 な、何ですか!?

ソウマ ちょっとこっち来い。

ソウマ、陸の胸ぐらをつかんで、舞台前方へ投げる。陸をリン・ソウマ・芽衣で囲む。

陸 ぼ、僕に何か用ですか？

ソウマ お前だろ、俺達壊し屋を雇ったのは。

陸 壊し屋？

芽衣 ちよつと、そんなにストレートに聞いても正直に答えるわけないじゃないですか。

ソウマ なーに、それなら答えたくなるようにするまでさ。

陸 リ、凜様は一体どうしたんですか？

リン 凜様？

陸 そんな乱暴な言葉遣いは凜様には相応しくありませんよ!! もっと萌えな言葉をチョイスして欲しいな。

ソウマ あ、やべえ。こいつガチだ。

下手からスーザンとレベッカが入って来る。

レベ 組織を裏切っておいてこんな所で雑談とは随分余裕ですね。

ソウマ お前!!

スーザ 四朗さんが帰ってこないのでボスがえらい事になってるんです。ミッションはひとまずおいといてアジトに戻ってもらえますか？

ソウマ 戻るって・・・大和から事情聞いてないのか？

スーザ 誰がお前は？

ソウマ クソツ面倒くさいな。

陸 あの、僕もう行っていいですかね？

芽衣 ダメに決まってるでしょ!!

レベ 戻る気がないなら従わせるまでです。

リン あの人たちは？

ソウマ 組織の連中だ。

レベ さあ、一緒に来てもらいましょうか。

レベツカ、銃を構える。

陸 おお!!アレはベレッタM92!!装弾数が15発と多く扱いやすい銃で動作不良の少なさに比べ価格

の安さで評価された銃ですな!! え、これって何かの撮影ですか!? いや〜リアルですな!!
ソウマ 違う、あれは本物だ。

陸 え?

レベ 火薬の量を減らし威力は落としてますが、怪我をするのは確実です。

ソウマ 俺に当てられると思ってるのか?

リン いや、狙われてるの私じゃないですかね!?

芽衣 ウケるんですけど!! 超ウケるんですけど!!

ソウマ これ以上面倒になる前にカタをつけ

ソウマのセリフの途中で鳴海がセリフを言いながら入って来る。

鳴海 はいはいはい!! 子猫ちゃんお元気になったの〜!?

リン 最悪・・・。

鳴海 おや、芽衣君まで。お元気〜!?

芽衣 はい、まあ・・・。

鳴海 ん? 何この微妙な空気。

リン どう説明したものやら。

鳴海 っていうか何、その子猫ちゃんの隣にいるメンズ2人は!? どういう関係なの!?

陸 僕ですか!?

ソウマ こいつが関係あるかどうかはまだ未定だ。

鳴海 じゃあるんだー!! そっちのメンは関係あるんだ〜!!

リン それはその……。

ソウマ おい、アンタ。

陸 はい!!

ソウマ、陸に近付き、肩に手を置く。(発信器をつける)

ソウマ もう行っていいぞ。これ以上状況がややこしくなる前に。

芽衣 え!? いいんですか!?

陸 それならその……失礼します!!

陸、ダッシュで下手後方に去る。

リン あっ!! 折角捕まえたのに!!

鳴海 ねえ何、どういう事!? その男は子猫ちゃんの何なの!?

リン え? えーと私……俺は……。

鳴海　ちゃんと説明して!!

リン　新しいダンスパートナーです!!

ソウマ　こらー!!

芽衣　・・・ウケる。

鳴海　ダンスパートナー？

ソウマ　何言い出すんだ!!

リン　すみません、つい。

鳴海　子猫ちゃん!!僕に黙って新しいパートナーってどういう事!?

レベッカ、上空に向かって銃を撃つ。全員、ピタッと止まる。

レベ　茶番はもうたくさんです、四朗さん、大人しく我々と一緒に来てもらいましょうか。

リン　女の壊し屋？

ソウマ　拳銃のレベッカだ。

リン　ゴリゴリの日本人ですけど。

ソウマ　ちよつと訳ありだな。

レベ　組織ナンバー1のあなたが裏切るとは。ボスはさぞかし悲しむでしょう。

ソウマ　だから別に裏切ったわけじゃないんだが・・・。

レベ 黙れ。お前が四朗さんをそそのかしたのだろうか？

リン そんな事してません!!

スーザ かばい合ってるにしては変な会話だな。

リン 別にかばってません!!

スーザ さてはアイツ素直じゃないな。

リン 私は素直です!!

レベ それ以上我々をバカにするつもりなら、相方から痛い目に合って頂きましょうか!!

リン え、ちょっと!!

レベッカ、ソウマに向かって銃を撃つ。弾を避けるソウマ

レベ バカな!?

レベッカ、再び銃を撃つ。避けるソウマ

レベ 弾丸をよけるだど!? そんな事四朗さん以外に出来るやつがいたのか!?

スーザ お前何者だ!!

ソウマ 弾をよけるのがちょっと得意なダンサーだ。

鳴海 そうだったの!?

レベ そんなダンサーいるわけないだろ!!

レベッカ、銃を撃ちまくる。全てよけつつ前へ進むソウマ

レベ このプレッシャー……まるで四朗さん……。ならあっちの四朗さんは!?

レベッカ、四朗の方に銃を向ける。

リン え?

ソウマ 危ない!!

ソウマ、リンを引き寄せる。レベッカ、再び撃とうとするがカチツと音がする。

ソウマ 今度はこっちの番だ。行くぜ。

スーザ 待て!!

スーザン、レベッカの前に立ちはだかる。

リン ……あの人も壊し屋？

ソウマ ああ。スーザンだ。壊しの手段は薬物。

リン ……薬物？

一瞬の間をおいて、スーザン以外の全員で、

全員 何かセコイ。

スーザ (レベッカに) アンタも言うのおかしくない!?

リン でも薬物なんて液体でも気体でも避けようがないですか!?!ピンチですよ!!

ソウマ 大丈夫だ。基本的にスーザンは食事や飲み物に薬物を交ぜる。今のアイツは何も出来ない。

全員の視線がバツとスーザンに集中する。スーザン、ソウマの言う通りなので頭を抱えながら座り込む。

スーザ あゝうゝ。

レベ 何しに来たのよ!?

ガチャン、ガチャンと金属の音。全員周りを見渡す。

リン この音は？

ソウマ 奴だ・・・奴が来た。

リン え？

ソウマ 俺の帰りが待ちきれなかったらしいな。

リン 誰なんですか!?

ソウマ 集中しろ。奴は2人とはレベルが違うぞ!!

リン 一体誰なんですか!?

ソウマ 壊し屋のボス・・・キヤスだ!!

壮大な音楽。下手後方からキヤスが黒マントのまま入って来る。

キヤス イエス。アイアム、キヤス・・・。マイネーム、イズ、キヤス。ラブリーキヤス。プリティーキ

ヤス!! ビューティフル、キヤス!! アイアム、キヤス!!

キヤスリン、黒マントを脱ぐ。下にはセーラー服姿に。10トンの武器を両手に持った姿が。

ソウマ アイツ、今年26だぜ。

キヤス 四朗〜!! 会いたかったわ!! 準主役を務めるには低すぎる身長!! ハゲてきた髪をおデコが広いだけ
と言いはる図々しいメンタル!! 顔面の中心で主張しすぎてるニンニクのようなドデカい鼻!! ああ
四朗!! やっぱリアナタは最高よ〜!!

ソウマ 結果悪口だろ!!

キヤス 私は今までずっと四朗に尽くしてきたのよ!?!? ずっとずっと四朗だけを思ってたよ!?!?
ソウマ ・・これはチャンスか?

リン え?

ソウマ キヤスはヒスを起こすと周りが見えなくなるんだ。

キヤス それなのに四朗は私をすてるの? 私を裏切るの? あーそう裏切るんだ。

リン すごい。さっきからしゃべりたい事しゃべりたいようにしゃべってる。

キヤス 四朗の・・・四朗の・・・。

ソウマ 凜!!

リン は、はい!!

ソウマ、リンの手を取る。

ソウマ 逃げるぞ!!

ソウマとリン上手へ走り去る。芽衣と鳴海、驚いて立つくしてしまう。

キヤス 四朗のバカッ!!

キヤスリン、後ろを向いてスーザンとレベッカを攻撃。吹き飛ぶスーザンとレベッカ。
大和、2人の間に立ちはだかつて。

大和 静まれ!! 静まりたまえ!! 仮にも裏の世界のボスが何故そんなにも荒ぶるのか!! 静まり!!

キヤスリン、大和のセリフの途中で大和を攻撃。吹き飛ぶ大和。芽衣と鳴海の方を向く。

鳴海 え!? あの、僕は多分本件には全然関係ないと思うんだけど!!

鳴海、芽衣を盾にする。

芽衣 ちょっと人を盾にししないで下さいよ!!

キヤス 四朗のバカッ!!

キヤスリン、芽衣を殴り吹き飛ばす。

芽衣 問題無用だし!!ウケるー!!

芽衣、上手へ去る。キヤス、鳴海の方へ。

鳴海 来る?こつち来る!?僕の事分らないもんね!!やっぱ来るよね、流れるにく!!

キヤスリン、鳴海のセリフの途中で殴り、鳴海、上手へ去る。

大和、急いでキヤスリンの方へ向かう。

大和 静まれ!!静まりたまえ!!

キヤス バカー!!

大和、再び飛ばされる。キヤス、正氣に戻る。

キヤス はっ!!私は一体・・・四朗!?四朗はどこ!!?

スーザ あの子の人と一緒に逃げて行きましたけど。

キヤス 何ですって!? 私がこんなに想っているのに!! 四朗の・・・四朗のバカー!!

三人 静まれ!! 静まりたまえ!!

大和、レベッカ、スーザン、キヤスリンをなだめようとするが飛ばされる。

キヤスリン、三人を何度も吹き飛ばしながら上手へ移動。四人、上手へ去る。

照明変化。凜の部屋。

リンとソウマが手をつないで入って来る。2人センターで落ち着く。

手をつないでいる事に気付き、バツと離す。

リン 部屋に戻って来て良かったんですね。あの人達、私の家知ってるんじゃないか。

ソウマ ああ、知ってる。

リン 周りの住人に迷惑かけるわけにはいきません。移動しましょう。

ソウマ 今何時だ?

リン え?・・・7時10分です。

ソウマ なら大丈夫だ。19時以降の活動は規則で禁止されている。

リン どんな組織ですか。

2人ゆつくり座る。

リン　・ ・ ・ さつきは ・ ・ ・ ・ ・ 。

ソウマ　ん？

リン　急に名前を呼ばれてびっくりしました。

ソウマ　すまない。咄嗟にでてしまった。

リン　いえ、いいんです。 ・ ・ ・ あの、四朗って名前なんですわね。

ソウマ　そう呼ばれてはいるな、一応。

リン　一応？

ソウマ　俺達は皆、身寄りのない孤児だな。男は組織に引き取られた順に名前が付いてる。一郎、二郎、三郎。俺は四番目だから四朗ってわけだ。

リン　あれ？でもあの若い人は大和って ・ ・ ・ ・ ・ 。

ソウマ　ある事件があつて組織が壊滅状態になつた事があつてな。以前のボスが死んでキヤスが新しいボスになつた。その時に組織の一員は新しく名前を付け直したんだ。大和って名前はアイツから頼まれて俺が付けてやった。アイツの元々の名前は十六郎だ。

リン　レベッカやスーザンも？

ソウマ　その2人はキヤスが付けた。元々の名前はキヤスが花子。レベッカが米子、スーザンが民子だ。

リン　振り幅ハンパないですね。

ソウマ ああ。

リン 四朗さんは新しく名前を付けなかったんですか？

ソウマ そんな気になれなくてな。

リン ・ ・ ・あの、私が考えましようか？名前。

ソウマ 何？

リン 今はすぐには思いつかないですけど、私で良ければ考えます。

ソウマ ・ ・ ・気持ちはありがたいが俺はたくさんの人を傷つけて来た。そんな資格ないさ。

リン 人を殺した事はないんですよね？それなら ・ ・ ・。

ソウマ いや、人を傷つけた事には変わりない。それしか生きる術がなかったとはいえ許されない事だ。

リン それしか術がなかったとはいえ許されない事 ・ ・ ・。

ソウマ どうした？

リン え？いえ、何でもありません。 ・ ・ ・それより踊りましよう！！

ソウマ 何？

リン しんみりしちゃった時は踊るに限りません！！嫌な事とか全部ふき飛びますから！！それに私のパート

ナーって事になったんですから上手くなってもらわなくちゃ！！

ソウマ あれは凜が勝手に！！

リン 協力してくれるって言いました。

ソウマ それとこれとは、

リン 運命共同体って言いました。

ソウマ いや、俺の運命はどうなるんだよ。

リン 何かあれば勿論協力します。まずは私の運命に付き合ってください。

ソウマ ・ ・ ・ やれやれ。俺はダンスなんかやった事ないぞ？

リン 大丈夫です。私が一から教えますから!!

2人、立ってダンスを始める。リン、ソウマの手を自分の腰に回させる。

ソウマ お、おい・ ・ ・。

リン このくらいで恥ずかしがってどうするんですか。しっかり持って!!

ソウマ まあ考えてみれば自分の体なんだよな・ ・ ・。

リン 基本のステップからいきますよ？まずは左右に揺れてみて下さい。

ソウマ、右足、左足と体重を移動させる。

リン そうそう、いい感じですよ。

ソウマ そうか？

リン、ソウマしばらく左右に揺れる。

リン
そのまま少しずつ足をズラして回ります。

リン、ソウマゆっくりと回る。

リン
いいじゃないですか!!上手なのです!!

ソウマ
自分では良く分かんがな。

リン
いえいえ!!充分なのです!!素晴らしいのです!!

ソウマ
あんまりホメられると照れるぞ。

リン
私は嘘はつきません。じゃあ、このまましばらく回って慣れましょう。

2人、しばらく回る。やがてソウマ少し体を離して、

ソウマ
なあ。

リン
はい。

ソウマ
さっきの反応はどういう事だ?

リン
「さっきの反応」ですか?

ソウマ 「術がなかったとはいえ、許されない事」って言葉への反応だ。

リン 変でした？

ソウマ 変だろう。どう見ても。

リン そうですか・・・。

ソウマ ま、無理に聞き出そうってんじゃない。少し気になっただけだ。言いたくないなら・・・

リン いえ・・・聞いて下さい。

2人、動きを止める。

リン 実は私、今のダンススクール二校目なんです。

ソウマ 二校目？

リン はい。最初に入った所をやめて今のスクールに通っています。

ソウマ やめた理由は？

リン 小さなスクールだったのでチャンスが無かったです。私はプロを目指していたから、ここにいても将来はないって思ってた・・・。

ソウマ スクールを移るのは業界ではタブーなのか？

リン いえ、そんなことは・・・。掛け持ちを許す教室もあるくらいですから。

ソウマ なら問題ないだろ。

リン 最初の教室で私は基礎を学んだんです。先生は本当に良くしてくれて、時間外でもダンスを見てく

れました。先生は私に期待してくれてたんだと思います。でも・・・私にはチャンスが欲しかった。

ソウマ それで今のスクールに？

リン はい。ですが不義理をしたヤツだって前のスクールの人に噂を流されて・・・。

ソウマ 孤立した。

リン でも芽衣だけは仲良くしてくれたんです。

ソウマ 芽衣？

リン 愉快的な友達です。

ソウマ ああ・・・で、どうだったんだ？スクールを移ってみて。

リン 鳴海さんのおかげで人前で踊る機会は増えました。グループ企業のパーティーなんかに出させてもらったり。オーディションやコンクールに出るチャンスもたくさんもらいました。

ソウマ 良かったじゃないか。

リン はい。でも・・・罰が当たったのか結果は全然で・・・罰は言い訳ですね。私に実力がなかっただけ。だからたまにですけど、不義理をしてまでやることだったのかなって思います。

ソウマ ・・・俺は一つの事に夢中になった事がないから分らないが、「必死になる」っていうのはそういう事なんじゃないか？凜は必死だったただけだ。今はまだチャンスをモノに出来ていなかったとしても、諦めないなら可能性はある。大切なのもう二度と後悔するような選択はしないって事じゃないのか？

リン、静かに笑う。

ソウマ 何がおかしい？

リン すみません。その……壊し屋とそのターゲットがこうやってなぐさめ合ってるのって何かおかしいなと思ひまして。

ソウマ ……ああ。

瞬間、魂の戻る音

蒼真 そうだな……。

2人、バツとお互いの顔を見て

2人 戻った!?

2人、自分の顔や体を触って元に戻った事を確かめる。

蒼真 やっぱり自分の体はしっくり来るな!!

2人、喜ぶが、立場も戻った事に気付く。シーンとした間。凜がゆっくり銃を蒼真に渡す。

凜 役目を果たしますか？

蒼真、銃をしばらく見た後、銃口を凜へ向ける。

蒼真 . . . 凜。

凜 はい。

蒼真 どうやら俺は試されるという事が好きじゃないらしい。二度とそういう話はしないでくれ。
凜 でも . . . 。

蒼真 凜を守ると約束した . . . 俺はどんな小さな約束だって守る。

凜 . . . すみません。

蒼真 それからもう一つ。

凜 え？

蒼真 敬語はやめてくれ。どうにもムズがゆい。それに . . . 俺達はパートナーなんだから？

凜 はい。善

その瞬間、魂が再び入れ替わる。

リン
処します!!

2人、しばしの間。

2人
また入れ替わったー!!

ソウマ
一時的なものか。．．．やれやれ、問題は山積みだな。とりあえずトイレに行つて来る。

リン
トイレ!?

リン、ソウマの後ろからチョークスリーパー。首をグキツとする。倒れるソウマ。

リン
私、本当にこれからどうなるの？

リン、ソウマの体をズルズルと引きずって去る。

照明変化「アジトの明かり」

大和が下手後方から入って来て上手へ移動。膝をつく。

スーザン、レベッカがキャスリンを両方から抱えて入って来る。
キャスリンの足はズルズルと引きずられている。

スーザ 自分の足で歩いて下さいよ。

レベ 20 t プラスキャスを持ち上げてる私達の身にもなって下さい!!

キャス ダメ・・・私はもうダメなのよ・・・。キャスリン・イズ・デッドなのよ・・・。

キャスリン、ヨタヨタと歩き舞台後方センターで横になる。

スーザ そんな所で寝ないで下さい!!

レベ ポスとしての威厳はどこにいったんですか!!

キャス 26 にもなってこんな格好してる時点で威厳も何もないわよ。

レベ 自覚はあったんですね。

キャス もー何たるー。色々どうでも良くなってきたなー。ねー、レベッカ。スーザン。

2人 はい。

キャス 人はなんで戦争なんかするんだろーねー。

2人 怖い怖い怖い!!

スーザ シャキツとして下さいよ!!元氣を出して!!

レベ 四朗さんに何か事情があったのかもしれないじゃないですか!!それに何といっても男は四朗さんだけじゃありません!!

キヤス そーかもだけどさー。あんなに顔の面積に対して鼻のデカい人、他にいるかなー?
レベ えっとそれは・・・。

キヤス チベットスナギツネも引くくらいあんなに目つきの悪い人、他にいるかなー。

スーザ また悪口になってますよ!!

キヤス はあゝ。今日の私はロンリーナイト。

スーザ そんなに落ち込まないで!!そうだ、これから飲みに行きましょうよ!!ビール飲みましょ、ビール!!
レベ それでその後はカラオケね!!

スーザ 朝まで歌っちゃう!?

レベ オールしちゃう!?

2人 楽しんじゃう!?

キヤス はあゝ。

2人 キヤスリン!!

キヤスリン、何かぶつぶつ言う。

スーザ こんなに盛り上げてるのにため息って。

レベ 待って!!

スーザ え?

レベ 今キヤスが何か言ってた。

レベツカ、スーザン、キヤスに近づき、聞き耳を立てる。

キヤス 笑いよ・・・今の私には笑いが必要・・・。

レベ 笑いつて。

キヤス スーザンのモノマネとか。

スーザ はい!?

キヤス スーザンのモノマネとか。

戸惑うスーザン。レベツカ無言で首をクイッと動かし「やりなさい」と指示。

スーザ え、・・・じゃ・・・○○○!!

スーザン、モノマネをする。その場に倒れるスーザン。

キヤス レベツカの一発ギャグとか。

レベ え!?

キヤス レベツカの一発ギャグとか。

レベツカ、首を大きく横に振るが、スーザンが無理矢理センターへ移動させる。

レベ どうしよう、泣きそう。でもやるしかないですよね。・・・レベツカの一発ギャグ、〇〇〇!!

レベツカ、一発ギャグをやる。その場に倒れるレベツカ。

キヤス 大和はモノマネからの一発ギャグで。

大和 何で俺だけ両方なんですか!!

キヤス モノマネからの一発ギャグで。

大和 本気で言ってます?

キヤス、スーザン、レベツカ再び手だけでセンターへ行くよう指示。大和、無言でセンターへ。

大和 え〜と、モノマネからの一発ギャグ行きます。〇〇〇〇!!〇〇〇〇!!

大和、やりきった後にその場に倒れる。同時に復活する三人。

キヤス よーし、じゃあ飲みに行こうか!!

レベ その後はカラオケで!!

スーザ 朝まで歌っちゃおう!?

キヤス オールしちゃおう!?

三人 楽しんじゃおう!?

三人、ワイワイしながら下手へ去る。一人、残される大和、前を向いて、

大和 これはもう芝居じゃない。……パワハラだ!!

大和、下手へ走り去る。少しずつ暗転。照明が暗くなり始めた時にS Eのニュースが入る。

S E

昨夜未明、都内に勤める会社員の男性が鋭利な刃物で斬りつけられ死亡するという事件が発生しました。警察は最近世間を賑わせている無差別殺人犯の犯行と断定し、捜査を進めているとの事です。また詳しい情報が入り次第お知らせいたします。次はスポーツです……。

SE、段々小さくなる。照明変化。外の明かり。
スクリーンには秋葉原の街並み。

ソウマが入って来る。後ろからリンが入って来る。

リン 秋葉原に用があるんですか？

ソウマ まあな。もうすぐ来るはずなんだが。

リン え？誰が？

ソウマ 昨日のストーカーだ。

リン でもあの人は!!

ソウマ 逃がす前に発信器をつけておいた。住所が分かったんで知り合いの探偵に頼んでアイツの行動を調べてもらった。

リン 探偵って。それで、あの人がここに来るの？

ソウマ 正確にはこの店に、だな。

ソウマ、客席側を指す。雑居ビルがある設定。

リン ……コスプレ喫茶？

ソウマ 常連らしい。ちょっと奥の方で待つとしよう。

ソウマ、リン舞台後方下手側へ移動。しばらくして陸が入って来る。

GパンにGジャン。赤いバンダナ。ハーフグローブ。右手に紙袋、左手にフィギアを持って登場。

陸 マジかよー。あるんだもんなー。あんな店にあるんだもん。これ造形師。昇能・剣先生のワンオフ

でしょ!? しかも2Pカラーだし!!キタッ!キタコレー!!マジでマジでマジで!?え、ドッキリじゃないよね。でも仮にドッキリでももう買っちゃったし、お金払ったし。この娘はもう我輩のものであるのは確かなわけで。いや、このポーズ。流石昇能先生。信者のツボをおさえてるな。このバランスで自立っつてもう神だよ。神。

ソウマ おい、そのオタク野郎!!

陸 僕のどこがおタクですと!? (2人に気付き) あ、昨日の!?

陸、逃げようとするがソウマが走って捕まえる。

陸 リ、凜様……。

ソウマ お前ストーカーだろ。

陸 ですから凜様、そのような言葉遣いは……。

ソウマ いーから答える。お前、凜を逆恨みして壊し屋を依頼したのか？

陸 何で僕が逆恨みしなきゃいけないんですか。

ソウマ 凜になかなか振り向いてもらえなかったからとか。付き合えないからとか。

陸 やめて下さい!!僕は凜様と付き合いたいなんて思ってます!!

リン ・・・どういう事？

陸 自慢じゃありませんが僕は三次元の女性には興味ないんです。凜様は玲亜ちゃんに凄く似ていたから応援していただけです!!

ソウマ 玲亜？

陸 知らないんですか!?昨年社会現象にまでなった超人気アニメ。「つむ月」に出てくるアイドルユニット、ミルキーエンジェルの玲亜ちゃんですよ!?

ソウマ 知らん。

陸 コレですよコレ!!

陸、持っていたフィギアを見せる。

ソウマ まあ似てることもないか？

陸 何言ってるんですか激似ですよ!!しかもこれは今年格闘ゲームに移植されて人気の2プレイヤーカラーなんです!!超レア物なんです!!

ソウマ ちよつと見せてみる。

ソウマ、乱暴に奪う。

陸 あー!!そんな乱暴に扱わないで下さい!!もつと優しく丁寧に!!

ソウマ どうやらマジ者らしい。

リン 何か複雑。

陸 それで、アナタは何なんです？

リン 私？私は……。

ソウマ 笹川陸。23歳。AB型。魚座。16歳の頃から土日は秋葉原で一日を過ごす。年齢イコール彼女いない歴。現在更新中。

陸 凜様が僕の事をそんなに……もしかしてストーカー!?
2人 違う違う。

陸 何が何だか分かりませんが、とにかく僕は生身の女性には興味ないんです。玲亜ちゃんに似ている凜様の事は純粹に応援しています。壊し屋……でしたっけ？そんな所に凜様をどうこうするよ
うな依頼する訳がありません。

ソウマ お前の話を丸々信じればな……。

陸 え……!!

ソウマ銃を取りだして陸に向ける。

リン ちよつとそこまでしなくても!!

ソウマ どうなんだ?

陸 知りません。

ソウマ 本当だな。

陸 僕じゃありません!!

ソウマ 嘘ついたら針千本飲ますぞ。

陸 信じて下さい!!

ソウマ、ゆっくり銃を降ろす。

ソウマ ・ ・ ・分かった。が、念の為どのくらいストーキング行為をしたのか聞いておこうか。

陸 どこまでって ・ ・ ・凜様のスケジュールを調べてこっそり後をつけて写真撮っただけですよ!!

リン バレバレでしたけどね。

陸 え!?

リン スクールの間でも噂になってましたよ。

陸 何故アナタがそんな事を知ってるんです？

リン あ、えーとー・・・。

ソウマ 凜。どうやらコイツは本当に依頼者じゃないらしい。

リン 分かるの？

ソウマ 俺がストーカーという言葉に反応したのには訳がある。今回、依頼の仕方が特殊だったんだ。

リン 特殊？

ソウマ ああ。俺達壊し屋に依頼する者とターゲットはたいてい顔見知りだ。当然だよな。依頼には結構な金がかかる。恨みを晴らすとか、何らかのメリットがないと意味がない。

リン 確かに。

ソウマ で、俺達はプロだ。どんなタイミングでどんな方法で壊しをするのか計画を立てる。タイミングによつては依頼者が疑われる可能性があるからな。

リン なるほど。

ソウマ で、大切になってくるのはターゲットの生活習慣だ。何曜日の何時にどこに行き、何時に帰宅するかなどの情報が必要になる。これは探偵の仕事だが、俺達への依頼とは別料金だ。

リン それで？

ソウマ 尾行するのは意外と難しい。まして、依頼者とターゲットは顔見知りだ。ほぼ百パーセントといていい確率で依頼者は探偵に頼む。が、今回は依頼者自らが調べたらしい。依頼と同時に凜の行動パターンを出してきたそうだ。

リン 興味津々で聞いてたけどテンションが落ち。え？私の行動パターン？

ソウマ 詳しい事は聞かなかったが、かなり詳細に調べてあったらしい。

リン あ、でも依頼する前に他の探偵に頼んだとか？

ソウマ それはない。

リン どうして？

ソウマ 手書きだったんだ、凜のスケジュールが。探偵なら依頼は仕事だ。ちゃんとパソコンで打ち直して報告書として提出する。

陸 僕以外の誰かが凜様をつけていた？

ソウマ そういう事になるな。

陸 って、え？あれ？凜様？

ソウマ これは俺の勤だが、決して金をケチったわけではないと思う。凜に対する執着心のようなものを感じるんだ。

リン 執着心……。

ソウマ で、目的の為に金はおしまないオタクなら犯人像としては正しく、と思ったんだがな。

リン でもそれでどうしてこの人が依頼者じゃないって確信できるの？

ソウマ コイツは自分の口から凜のスケジュールを調べてると言った。ただでさえ疑われてるのに益々怪しく思われる情報を出すか？

リン でも、私達がそういう風に捉えることを狙っていたとしたら？

ソウマ いままでの会話でコイツがそこまで計算出来るやつだと、

リン 思わない。

陸 食い気味!!

ソウマ そういう事だ。……他に誰か恨みを持つてるヤツか、凜がケガをして得するやつがいる。動機が分ければ依頼者も探しやすくなるんだがな。

陸 あ、じゃあ僕はこれで……。

陸、下手へ去ろうとするがソウマが銃を構える。

ソウマ ちょっと待て。

陸 何でいちいち向けるんですか!?

ソウマ もう一つ用がある。俺にとってはそっちの方が重要なんだが。お前、国立の医療大学に通ってるだろ?

陸 一応。

ソウマ 専攻は?

陸 脳科学です。

ソウマ そして入ってるサークルはアニメ研究会と超常現象研究会。

陸 そうですけど?

リン まさか。

ソウマ お前に頼みたい事がある。手短かに話すが全部本当の事だ。今すぐ信じて協力してくれ。

リン お願いの仕方下手か!!

陸 えっと、どういう事でしょう。

ソウマ 実は・・・かくかくしかじかでな。

リン ちよつと。

陸 信じられない！そんな事が起こるなんて!!

リン 伝わるんかい。

ソウマ 世界でそういった事例がないか調べてくれ。元に戻る方法も分かればベストなんだが。

陸 どうして僕が!?

ソウマ 勿論タダでは言わん。

陸 え？

ソウマ 無事元に戻れた暁には凜にその格好をさせて何曲か歌わせる。

ソウマ、フィギアを指差す。

リン はい!?

ソウマ お前一人の為だけに行われるコンサートだ!!

リン　ちよつと!!

陸　さつきも言いましたが我輩は三次元に興味はないんです!!いくら凜様が玲亜ちゃんに似てるからって簡単にその気になると思ったらおおま、やりましょう!!

リン　やるんかい!!

ソウマ　契約成立だな。

凜の電話が鳴る。

リン　芽衣からだ。

リン、電話に出る。上手後方より芽衣と鳴海が入って来る。

リン　もしもし?

芽衣　相変わらずオッサンの声だし、ウケるし。

リン　用ないなら切るよ?

芽衣　待った!!今さ、オーナーと一緒にいるのね。

リン　鳴海さんと?

芽衣　昨日の凜の様子がおかしかったから何かあったのかって聞いて来てさ。

リン まさか!?

芽衣 いや大抵の事は誤魔化したけど、新しいパートナーってどういう事なんだってしつこいの。最初は慌てぶりがウケてたんだけど、今じゃ殺意しか沸かない。

リン 何かゴメン。

芽衣 で、もう直接聞いて下さいって言っちゃったのね。

リン うん、分かった。

ソウマ どうした?

リン 鳴海さんが新しいパートナーってどういう事なのか説明してくれって。

ソウマ 呼ばれてるのか?

リン うん。

ソウマ そうか。陸。

陸 はい。

ソウマ お前はそのままコスプレ喫茶を堪能した後、自宅に戻り、世界中の医療系ニュースを調べまくって魂の入れ替わりについて調べてくれ。

陸 頑張ります!!

陸、敬礼した後、ダッシュで下手へ去る。

ソウマ じゃあ俺達も行こう。

リン 芽衣、今からそっちに行くから。

芽衣 私達も移動するね。中間で待ち合わせましょ。

4人、「とう!!」とジャンプして舞台センター付近へ。

鳴海 子猫ちゃん!!

芽衣 どうどうどう。

芽衣、鳴海を手で制する。

芽衣 まず私が話したい事があるので後にしてもらっていいですか？

鳴海 そんなやつと子猫ちゃんと話が出るっていうの……

芽衣 黙れ!! 気を付け!! 下がれ!! お座り!!

鳴海、黙り、気を付けをした後、3歩下がりに座る。

ソウマ どーゆー関係なんだ。お前ら。

芽衣 凜、一体どこ行ってたの？そんな体で。

リン 秋葉原。

芽衣 アキバ？どうして？

リン この人のおかげで陸さんの……例のストーカーの素性が分かって……。

芽衣 え!?

リン 会ってゆっくり話を聞いてきた。

芽衣 もう!!何でそんな面白そうな事に私を呼んでくれないのよ!!それで!!

リン 依頼者はあの人じゃないみたい。

芽衣 そう……。

リン でも協力してくれる事になった。

芽衣 協力？

ソウマ まあ色々だ。

芽衣 へー。良かったね。今度私にも紹介してね!!

リン う、うん……。

芽衣 でも、それじゃ一からやり直して事？

リン うん……。自分に恨みを持つてる人を探すってのもしんどい作業だけど。

芽衣 だよなー。アレどうする？このまま連れて帰ろうか？

リン 多分大丈夫。

芽衣
そう。

芽衣、鳴海の方を向いて

芽衣
よし!!

鳴海
子猫ちゃ〜ん!!

芽衣
どうどうどう。

芽衣、鳴海を手で制する。

芽衣
凜は今とても疲れてます。言葉遣いが悪かったり話がかみ合わない事もあるかもしれませんが。でも

それは全て疲れのせいであり、疲れ以外の何物でもありません。

鳴海
圧が異常に強いですが分かりました。では……。子猫ちゃん!!僕に何の相談もなく出場種目を変えらるってどーゆー事!?!しかもこんな怪しげな男を新しいパートナーにするなんて!!

ソウマ、リンをチラッと見る。リンお願いのポーズ。

ソウマ、芽衣を見る。芽衣、首で「答えなさい」のジェスチャー。

ソウマ 気分だ。

鳴海 気分!?

リン 元々踊りたかったのソシアルなんじゃなかったっけ？

ソウマ そうだな。

鳴海 そうなの!? それならそう言ってくれば良かったのに!!

ソウマ一瞬、リンを見て、

ソウマ その、何だ。お前忙しいから気を使ったんだよ。

芽衣 凄い。しゃべり方全然似せる気ない。

鳴海 子猫ちゃんは優しいなあ。僕なら構わないのに。いや構わないドロコか前のように僕をパートナーにすればいいのに!!

ソウマ そうなのか？

鳴海 え？

芽衣 凜がウチのスクールに入った頃はソシアルをメインに踊ってて、パートナーがオーナーだったんです。でもオーナーにはダンスの才能がなくてお荷物だったんですね。

鳴海 芽衣君、言葉にエッチが効きすぎじゃないか？

芽衣 で、凜の事が好きになったオーナーはプロデューズに徹する事にしました。自分の会社のパーテ

イーやイベントに凜を呼んで踊らせてました。

ソウマ それは凜だけか？

芽衣 はい。

ソウマ だとしたら他のダンサーからやつかみを受けたんじゃないか？

芽衣 んー、どうでしょ。そこで踊れても経験値は上がるかもしれませんが、道が開けてるわけではないですし。やつぱりコンクールなんかで優勝しないと。

ソウマ じゃあその線は考慮しなくてもいいって事か。

芽衣 はい。

鳴海 芽衣君？

芽衣 何でもありません。で、オーナーは次のコンクール、ソシアルでの出場を許可するんですか？

鳴海 それなんだけどね、チミはダンス上手いのかい!?どれだけやれるんだい!?

リン え!?

鳴海 子猫ちゃんのパートナー勤められる程上手いのかい!?試しに今ここで対決しようじゃないか!!さ、子猫ちゃん。僕達の完璧なコンビを見せつけちゃおう!!

ソウマ 何!?

鳴海 照れる事はないぞよ!?手と手を合わせて踊り狂いましょうぞ!!

芽衣 オーナー!!ダンス対決なら直接踊ったらいじゃないですか!!

鳴海 何が悲しくて男と手をつないで踊らなきゃいけないの!!そもそも男同士じゃ踊れないでしょ!!

芽衣 あ、大丈夫です。この人女性パートの方が得意なんで。

鳴海 芽衣君は彼の事知っているのかい？

芽衣 凜から少し聞いてます。

鳴海 実力は？

芽衣 それはちよつと。ま、踊ってみれば分かりますって!!

鳴海 しかし……。

リン、鳴海に近付いて手を握る。

鳴海 これ大丈夫？絵的にヤバくない？

芽衣 絵的にだけで言うなら、ウケます。

リン、首をかしげで動かない。

鳴海 さあ！早く踊って決着をつけようじゃないか。

リン、握っていた手を離す。

鳴海 ん？

リン ……何だろう。しつくり来ない。

鳴海 当たり前でしょ!!男同士手えニギニギしてしつくり来たらただの変態じゃないのよさ!!

リン あ、その……すみません。

鳴海 え？

芽衣 どうかしました？

鳴海 あ、いや、今なんか反応が……。

ソウマ よーし今日はこのぐらいにしといてやろう!!

鳴海 何かな急に!!

ソウマ 彼の体調が良くないみたいなので、対決はまた後日という事にしよう、しましょう。その、勝手な

事言つて「すみません」。

芽衣 あ、ちよつと似てる。

鳴海 子猫ちゃんがそういうなら仕方がないなあ。チミ!!子猫ちゃんの心使いと僕ちんの海より深い優し

さに感謝するんだよ？

リン ……はい。

鳴海 おつと役員会議の時間だ。芽衣君もレッスンに戻りたまえ。

芽衣 分かりました。

鳴海 じゃ、子猫ちゃん、今度から出かける時はちゃんとどこに行くのか報告してね？心配だから。まだ

病み上がりでしょ？

芽衣 あ、私も私も!!ちゃんと連絡しようだね？

リン うん。

ソウマ (後追いで)うん!!

鳴海 それじゃあね!!バイちゃ!!

鳴海と芽衣、上手に去る。

ソウマ さて、俺達も帰ろう。

リン はい。

照明、変化。スクリーンに凧の部屋。リンとソウマ少し移動して場所が移った事を表現。

リン じゃあ今日もレッスンの時間なのです。

ソウマ ああ。凧がレッスンしてる練習風景のDVDか何かあるか？

リン え？最近撮ったのがあるけど・・・。

ソウマ ダンスプロを目指してる奴等の空気ってのを知りたい。俺はそういうのから入った方が早い気がする。

リン 協力してくれるのは嬉しいけど、ちょっと恥ずかしいかも。

ソウマ 気持ちに分かるが耐えてくれ。

リン ……分かった。

リン、DVDをセットする。鳴海がレッスンしている声が聞こえる。

ソウマ コイツが講師かよ!!

リン 鳴海さんは教えるのは上手いんです。ダンスの才能はなくても、人を伸ばす才能はあると思う。

ソウマ (ちょっと不機嫌そうに) ……そうかあ？

リン うん。そういう所は尊敬してるし、信用してる。

ソウマ 別にアイツの評価を聞きたいわけじゃない。大切なのは練習の空気だ。

リン あ、ゴメン。

ソウマ 別に謝る事じゃないが……。

2人、数秒DVDを見る。

ソウマ ……なあ、凜。

リン 何？

ソウマ ここに映ってる・・・男と女合わせて20人くらいか？その中でも一番上手いのは凜だな。

リン え!? そう!? 凄い嬉しい!!

ソウマ ただ・・・。

リン 何？

ソウマ ・・・・楽しんでるか？

リン え？

ソウマ ダンスって凜がやりたい事なんだよな？誰かに強制させられてる事じゃないよな？

リン ・・・・うん・・・。

ソウマ 踊ってる自分が楽しまなきゃ見ている人も楽しめない、なんて言うつもりはないが・・・何て言う

か・・・凜の踊りからは何も伝わって来ないんだよな。一番上手いはずなのに。

リン ダンスを楽しむ・・・。最近は考えた事もなかったな。

ソウマ 色んな事がプレッシャーになりすぎてたんじゃないのか？

リン ー。でもそうかもね。ダンスを学び始めた頃は体を動かすことが楽しくてしょーがなかったのに。

ソウマ そうか。

リン ターンが上手く回れた時はそれだけで嬉しかったんだ。

ソウマ そうか。

リン でも今はどう正確に動くか。どうミスらずに踊るかだけ。楽しいなんて気持ち忘れちゃった。

ソウマ ・・・・なら俺に教えてくれ。

リン え？

ソウマ ダンスの楽しさを俺に教えてくれ。そうすりゃ凜も少しは楽しくなるかもしれない。

リン ・ ・ ・ うん！！

2人、立ち上がり、リン、ソウマの手を取る。リン動かない。

ソウマ ・ ・ ・ どうした？

リン アレ？何だろ。しつくり来る。

ソウマ ・ ・ ・ 凜は急に照れる事を言うな。

リン 私は素直ですから。

ソウマ そうだな。

リン じゃ、いきますよ。昨日の続きから。

リンがステップを教える。上手く踊れないが笑い合う2人。
ターンの時につまづき、倒れる2人。魂の入れ替わる音。

凜 やっぱり私の筋力では支えるのが難しいですかね。

蒼真 いや、悪い。俺がバランスを崩しただけ ・ ・ ・ ・ ・ ん？

2人

戻ってる。

蒼真

昨日とは時間も状況も違う。規則性があるわけじゃないらしいな。

凜

あの、まずは体を起こしてもらえると……。

蒼真

ん？ああ、悪い。

蒼真、一瞬、凜と目が合う。沈黙する2人。

凜

……何？

蒼真

いや……。魂が入れ替わっている時は顔が俺な分、逆に凜の存在を強く感じる。こうして客観的に見るのが不思議な気がしてな。

凜

確かに。でも嫌いじゃないですよ。この感じ。

蒼真

また凜はそうやって無防備な事を……。

蒼真、言ってる途中で客席の方を見た後、凜の頭をつかみ下げさせる。その瞬間、パリンとガラスが割れる音。

凜

あゝ!!ガラスがゝ!!壁がゝ!!

蒼真

角度的に俺達を直接狙ったわけじゃなさそうだな。

凜 何なんですか一体!!

蒼真 奴等だ。奴等が来た。

凜 まさか!?

照明変化。キヤスリンとレベッカ、スーザン、大和が上手後方から入って来る。

レベッカの手には銃。大和の手には拡声器。

キヤス イエス!! アイアムキヤスリン!! プリチャーキヤスリン!! ワンダフルキヤスリン!! イエス!! イエス

!! イエス!!

凜 登場する度に凄味が増してる気がする。

キヤスリン、手を大和の方へ出す。大和、拡声器をキヤスの手へ。

キヤス このドロボー猫!! 四朗は返してもらうんだから!! 大人しく出て来て正々堂々勝負しなさい!!

凜 ねえ、これ私とばつちりじゃない?

蒼真 申し訳ないと思う。

凜 出て行かなきゃダメ?

蒼真 近隣の事を考えるなら早めに行った方がいいだろうな。

凜　だよね。じゃあ・・・。

凜、フライパンを持ってくる。凜と蒼真、立ち位置を少し下手にずらす。

後方にいたキヤスリン、レベッカ、スーザン、大和、前へ出てくる。6人が同じ空間になる。

凜　あゝ。

キヤス　良く出て来たわね小娘!!それは何ですか、余裕ですか!? 四朗と一緒にいる余裕ですか!? キイ〜くやしい!!

凜　私、あの人とコミュニケーションとれる自信ないんだけど。

蒼真　本当に申し訳ない。

キヤス　四朗!!今助けるからね!!四朗はこの変態女から悪い魔法をかけられてるだけなのよ!!さあ、私と闘って四朗を開放しなさい!!まずはレベッカ!!リベンジよ!!

レベ　え?私ですか?だって私がいったら、

蒼真　飛び道具は流石に俺が出よう。(凜からフライパンを受け取る)

レベ　ほらね、こうなりますって。アレ絶対いつもの四朗さんの反応ですよ。

キヤス　あゝもうキヤスリン死ぬ〜!!明日には冷たくなってる〜!!誰からも愛されずに一人寂しく死んでいく〜!!

レベ　やります、やりますから!!

蒼真とレベッカ、相對する。

レベ 無理だと思いますが、・・・一応行きます!!

レベッカ、立て続けに5発銃を撃つ。全部よける蒼真。
レベッカ、最後に凜に向けて撃つ。直前でフライパンで受ける蒼真。

蒼真 想定内だ。

レベ やっぱり無理ですよ。アレ防がれたらもうお手上げですって!!

キャス 仕方ないわね!! スーザン、行きなさい!!

スーザ 任せて下さい!!

蒼真 ・・・・アイツならやりようによっては何とかなるか?

蒼真、フライパンを凜に渡す。

凜 え!?

蒼真 大丈夫だ。本当にマズくなったら助けてやる。

凜 だって液体の薬品だったら避けられないじゃないですか!!

蒼真 大丈夫だ。現在凜の壊しは俺が担当している。依頼されてる2週間程度のケガ以上の事はして来ない。

凜 2週間？

蒼真 ん？

凜 あ、いえ。

蒼真 スーザンにも壊し屋としてのプライドがある。大丈夫だ。

凜 ええ〜・・・・。

凜、渋々スーザンの方へ歩く。

蒼真 多分。

凜 多分かい!!

スーザ 今日私は万全だ。これを使わせてもらおう。

スーザン、小瓶を取り出す。

凜 それは？

スーザ クサヤとドリアンの臭いを独自の方法で抽出し濃度を3倍程圧縮した後、液状化させたものだ!!
キヤス 無いわ。

スーザ こっちサイドが引くのはおかしくないですか!?とにかく!!この薬品が一滴でも体に付着したら一生消えない臭いになってまわりつくのよ!!覚悟しなさい!!

凜 壊しの依頼よりたち悪いんですけど!?

スーザ くらえ!!

スーザン、小瓶から液体を凜の方へかける。驚いて後方に避ける凜。

スーザ よけたな!?これでここの地面は永遠に臭いままだぞ!!

凜 私の近所に何て事するんですか!!

スーザ もうすぐ地面の熱で液体が気化する。強烈な臭いにむせ返るがいい!!

凜、一瞬身構えるが、手にしているフライパンに気付く。

スーザ さあ、もうすぐだ!!もうすぐで強烈な臭いが発生するぞ!!

凜、フライパンを上下に振りウチワとして使用。

突然苦しみだすキャスリン、スーザン、レベッカ、大和。

蒼真 アホだなコイツ等。

キャス スーザン何とかしなさい!!

スーザ い、今、中和剤を!!

スーザン、もう一つ小瓶を取り出し、液体を地面にかける。ふくと一息つく4人。

凜 これ、私の勝ちって事でいいのかな？

蒼真 だな。

スーザ くやしいう!!

キャス 四朗!!そんなにその女が大事なわけ!?その女にホシてるわけ!?

蒼真 ・ ・ ・何を言ってるんだ？

キャス 間があったー。今、間があったら!!ちょっと前までは私にゾッコンだったくせに!!いいの!?今こ
こで色々バラしちゃうわよ!?負けを認めるなら今のうちなんだからね!!

蒼真 別に何を言われたって構わないが。

キャス 劇団の時、私がローライズはいて練習してたら「パンツ見えた」って喜んでたじゃない!!

蒼真 よし降参だ。負けを認めよう。

キヤス この間の飲み会の時だった。

蒼真 そこまでだ。

キヤス 一体どうしたっていうの!? 私に飽きたの!? それならそうと言って!!

蒼真 だから事情があつ、

キヤス いーえ聞かないわ!!

蒼真 どーしたいんだよ。

キヤス 私がこんなに想っているというのにアナタはつれないのね!! 四朗の……四朗の……

レベ スーザン歯あくいしばって!!

スーザ うん!!

キヤス 四朗のバカさ!!

キヤスリン、後ろのレベッカ、スーザンを殴る。上手に飛ばされるレベッカとスーザン。後を追いかけるキヤスリン。

大和 静まれ……静まりたまえ!!

上手袖に向かって声をかける大和。言い終わった瞬間、後ろを向いて凜を銃で撃つ。蒼真、後ろから凜が持つてるフライパンをつかみ面にする。

大和　これも読んでたんですか？

蒼真　お前に壊しの技術を教えたのは俺だぞ？

大和　安心しました。アニキはやっぱりアニキですね。ここ2、3日は別人のようでしたから。

蒼真　気のせいだろ。

大和　そうですね。だとするとお二人は弾丸を避けられるカップルって事ですか。アニキ以外にそんな

事が出来る人がいるなんて思いませんでしたよ。

蒼真　何が言いたい。

大和　別に。ただ違和感を感じただけです。

蒼真　キャスリンを頼んだぞ。

大和　分かりました。

大和、上手へ去ろうとするが、立ち止まり、

大和　そうそう。僕もね、出来るようになったんですよ？弾丸避けるの。アニキを追い抜けるのもそう遠

くないかもしれないです。

蒼真　余計な事は考えるな。今はまだキャスやレベッカ、スーザンの言う事を聞いてろ。

大和　僕をガキ扱いしないで下さい!!

大和、蒼真を睨んだ後、上手に去る。

蒼真 やれやれ。．．．大丈夫か？

凜 腰抜けちゃった．．．。

蒼真 つかまれ。

凜 え？

蒼真 運んでやる。

凜 い、いいいい、いいですよ!!大丈夫です。自分で立るのです！

蒼真 立てないだろ。

凜 立てないですけどいいです!!

蒼真 大丈夫だ。凜の体重は把握している。

凜 そういう問題じゃありません!!

蒼真 ダンスの練習、するんだろ？

凜 それは．．．。

蒼真 暴れると危ないからジツとしてろ。

蒼真、凜を持ち上げる。その瞬間、魂が入れ替わる。

ソウマ ……すまないな。

リン いいって事よ。

リン、ソウマを抱えたままセンターへ移動。ソウマを降ろす。

リン 昨日よりも戻ってる時間長かったね。

ソウマ ああ……だがやはり魂が安定しない内は一緒に行動した方が良さそうだな。

リン うん……。

ソウマ さ、ダンスの続きをしよう。

リン うん。

リン、ソウマの手を取ってダンスを始める。

リン ねえ。

ソウマ ん？

リン 付き合ってたの？キャスリンと。

ソウマ なんでそんな事を聞く。

リン 別に・・・何となく。

ソウマ キャスリンは・・・世界が狭すぎるんだ。まともに話した事のある男は俺と大和。・・・後は俺達を拾ってきたジジイくらいだろうな。

リン そうなんだ・・・。

ソウマ アイツは年上のおれに対して好意を抱いてると勘違いしてるだけだ。

リン 勘違い？そうかなあー。

ソウマ じゃなかったとしてもアイツに相応しい男は他にいる。何より俺からすればキャスは妹みたいなもんだからな。

リン 妹？

ソウマ ・・・妹だな。

リン ふーん。

ソウマ 嬉しそうだな。

リン べ、別に嬉しくないし。

ソウマ 安心したか？

リン 何ですか安心して!!むしろ不安です。

ソウマ 凜は素直じゃないな。

リン 私は素直です!!

ソウマ 冗談だ。それより腹減ったな。

2人、踊るのをやめて、離れる。

リン
何食べたい？守ってくれたお礼。……あんまり手の込んだものは作れないけど。

リン、下手ソファの裏から可愛いエプロンを取り出してつける。

ソウマ
そのエプロンはやめてくれないか。

リン
可愛いでしょ？お気に入ってるのです。

ソウマ
なあ。どうせなら少し多めに作って、明日公園に行って食べないか？

リン
え？

ソウマ
精神的にキてるんじゃないか？気分転換でもした方がいいだろ。

リン
それってもしかしてデートのお誘い？

ソウマ
って言ったらどうする？

リン
引きます。

ソウマ
お前な。

リン
冗談。楽しそう!!

ソウマ
それに少し準備がいるしな。公園で飯を食べたら俺個人の隠れ家へ行く。手持ちの武器じゃ心許な

いからな。

リン え、じゃあ明日キャスさん達が来たらどうするの!?

ソウマ 明日は日曜だろ。休みだ。

リン 職場環境良すぎるでしょ。……分かった!!じゃあ多めに作るっか!!

ソウマ ああ。

リン ……フライパンポコポコなんですけど。

ソウマ 申し訳ない。さて、それじゃ俺はトイレ行って風呂入って来る。

リン はい!?

リン、ソウマの後を追って首をグキツとしようとするが、避けられる。

ソウマ 素人にそう何度も落とされるわけには……。

リン、ソウマのセリフの途中でボディブロー。倒れるソウマ。

リン、ソウマの体を持ち上げながら、

リン 三回続けて同じオチって……。大丈夫かな?

暗転、S Eが入る。

S E

同様の手口による殺人事件です。都内のマンションで25歳の男性とみられる遺体が発見されました。男性は肩口から右の脇腹にかけて斬りつけられており、死因は大量出血によるショック死との事です。被害者はこれで8名になり、警察は目撃者がいないか調べを進めています。

スクリーンに公園の風景が映る。リンとソウマがセンターに座っている。

ソウマ ふう。苦しいな。もう食えん。

リン 無理しなくて良かったのに。

ソウマ 折角作ってくれたものだ。残さず食いたい。

リン 美味しかった？

ソウマ ああ。特に玉子焼きが。

リン それは良かったのです。

ソウマ、一息ついて空を見上げる。

ソウマ 晴れたな。

リン うん。

ソウマ が、今まで夜しか活動してなかったからな。こーう明るいと落ち着かない。

リン ドラキュラみたい。

ソウマ だな。．．．しかし空の青っていいな。気持ちがいい。

リン 青が好きなの？

ソウマ 色を好みでとらえた事がなかったが．．．そうだな。どうやら俺は青が好きらしい。

リン 私も。私も青が好き。

ソウマ そうか．．．。

2人、しばらく空を見上げる。ソウマ視線を周りに移す。家族の楽しそうな声。

ソウマ 当たり前前の事だが、ここにいる多くの人は普通の教育を受けて普通の生活をしてきたんだな。俺は他人を傷つけて生きて来た。そんな俺がこんな場所にいるのかって思ってしまう。

リン 一つ聞いてもいい？

ソウマ 何だ？

リン 壊し屋って仕事が好きなのじゃないんでしょ？他の仕事を探そうとは思わない？

ソウマ 思ったさ。何度も。

リン なら!!

ソウマ だが俺にはやらなきゃならない事がある。

リン ・ ・ ・ 何？

ソウマ 復讐だ。

リン 復讐？

ソウマ こんな仕事だからな。組織を壊滅させたいと思ってる奴は大勢いる。いろんな奴等が様々な手段を使って攻撃してきたが、全て退けてきたんだ。．．．あの日までは。

リン ・ ・ ・ 何があったの。

ソウマ 3年前の事だ。俺はその日依頼が入っていたから不在だったんだが、一人の男がアジトに乗り込んできた。

リン 一人？

ソウマ 信じられないだろ？アジトには20数名の現役の壊し屋がいたんだ。なのにたった一人にやられた。奴は俺達のボスを狙う殺し屋だった。．．．。

照明変化。ソウマとリンは上手下手へ分かれて後方へ移動。

上手後方からスーザンが、下手後方からレベッカが入って来る。2人は口々に「花!!花!!」とキヤスリンの元の名前を呼ぶ。

キヤスリン、下手から入って来る。

キヤス 民!!米!!無事だったのね!!

レベ ボスがやられました!!

スーザ 私たちのせいです!!私たちが足手まといだったから!!

キヤス 奴はどこ!?

スーザ もうすぐここへ来ます!!

キヤス これだけの事をしといて正面から出るつもり!?

ゼロ そのつもりだが?

ゼロ、大和の腕をねじりながら上手後方から入って来る。ゼロはサングラスをかけている。手には刀。大和を人質に取るという感じではなく、ただ歩いて来る。

キヤス キサマ!!

ゼロ ここにいる者は皆筋がいいが人を殺す覚悟のない奴等ばかりだな。だから大切な所で力が出せずに負けるのだ。

キヤス 余計なお世話よ。それより、改めて聞くけど、ここをこのまま通るつもり?

キヤスリン、スーザン、レベツカ構える。ゼロ三人を見て

ゼロ ……難しい事ではないな。
レベ ナメるな!!

レベツカ、ゼロに斬りかかる。それを避けてセンターへ移動するゼロ。
同時に大和を離す。大和もゼロに向かって構え直す。

ゼロ 分かっているはずだ。お前達では俺に勝てん。

キヤス だからってボス殺されて素通りさせる程、お人好しじゃないのよ!!

ゼロ 裏世界に生きる者がそのような甘い考えをしていると早死にするぞ。もともと俺はその甘さ、決して嫌いだはないがな!!

ゼロ VS キヤスリン、レベツカ、スーザン、大和の殺陣。大和↓スーザン↓レベツカの順でやられる。
ゼロは三人の足を狙い動けなくする。最後にキヤスリンが斬りかかるが避けられ、刀を寸止される。

ゼロ ここまでだ。

キヤス ……殺さないの？

ゼロ ボス以外の殺しは依頼されていないからな。

キヤス 余裕ね。

ゼロ 美学だ。

キヤス 答える訳ないだろうけど一応聞いとく。依頼者は？

ゼロ 答えないと分かかっていて何故質問する。お前は面白いヤツだな。

キヤス それはどうも。……でもね、面白いだけじゃないのよ。こう見えて結構執念深いの。例え何年かかってても、どんな手を使ってでも依頼者を見つけて壊してやるわ。

ゼロ 依頼者の目的は組織の壊滅らしいからな。ボスが死んで目的は達成できた。仮にお前に壊されても満足なんじゃないか？

キヤス いいえ。組織は潰さない。

ゼロ 何？

キヤス たった今からボスは私よ。

レベッカ、スーザン、大和、ロ々に「花!!」と呼ぶ。

ゼロ お前が？

キヤス ええ。

ゼロ、キヤスの首元にあった刀を落とす。

ゼロ 女のお前が組織を束ねられるかな？少なくともお前より強い者が数名いたぞ。あいつらを説得出来るのか？

キヤス 強くなる。誰よりも強くなって文句のある人は力でねじ伏せる。忘れないで。私のターゲットにはあなたも入ってるんだからね。

ゼロ 楽しみだ。

キヤス コードネームくらいあるんでしょ？

ゼロ ……ゼロ。

大和 ゼロ!? ゼロってあの伝説の殺し屋!?

キヤス あなたは絶対に私が壊す。

ゼロ、余裕の笑みを浮かべた後、下手へ去ろうと移動する。

キヤス それからもう一つ。

ゼロ、キヤスリンの方へ振り向く。

キヤス あなたは四朗を知らない。

ゼロ 四朗？

キヤス あなたが伝説の殺し屋なら、四朗は伝説の壊し屋って所ね。

ゼロ 今回の依頼は当たりだな。しばらくの間は退屈せずに済みそうだ。

ゼロ、下手へ去って行く。

スーザ 花!!ボスになるって本気なんですか!?

キヤス 勿論。

レベ 私は良いと思うけど。

スーザ 米ちゃん!!

レベ 組織は無くなって欲しくない。ここが私の居場所だから。でも変な人がボスになるのは嫌。民ちゃんだってそうでしょ?

スーザ それはそうだけど……。

レベ 大変だとは思いますが。でも私なりに精一杯バックアップしますから。

スーザ 私も!!私も頑張ります!!

キヤス ありがとう。まずは強くならなきゃ。今よりもずっと。

キヤス、大和の近くに移動。手を差し出す。

キャス 立てる？

大和 はい……。

キャス じゃ行くわよ。

大和 どこへ？

キャス ボスの所よ。今の気持ちを忘れないようにこの目によく焼きつけとく。ただし。

スーザ ただし？

キャス 復讐だけに生きるの無し。自分の人生は自分の人生として生きなきゃね。

レベ はい!!

スーザン、大和もうなずく。キャスリンを先頭に上手後方へ去って行く。

リンとソウマセンターへ移動。照明変化。現在の明かり。

リン それで依頼者と殺し屋に復讐って事？

ソウマ 依頼者にはもう復讐を果たした。ボスに個人的な恨みがあつたらしい。

リン 見つけたの!?

ソウマ キャスリンがな。

リン でもヘタに手を出したらまたその依頼者の恨みをかって、例の殺し屋が来てしまうんじゃない。

ソウマ 狙いはそれだったらしいがな、残念ながらその目論見は外れた。

リン どうして？

ソウマ 壊したのは依頼者の体だけじゃなかったって事だ。

リン 精神もって事？

ソウマ ああ。

リン キヤスリン恐すぎでしょ。

ソウマ だから未だに殺し屋には会えてないってわけだ。

リン 何か世界観が違い過ぎて……。私の今までの人生って平和だったんだなあって思う。悩みだつて本当にちつぽけなものだし。

ソウマ 悩みに大きいも小さいもないだろ。

リン だって私の悩みなんてダンスくらいだよ？

ソウマ 真剣にやっってるんじゃないのか？

リン それは勿論。

ソウマ なら自分のやってきた事に自信を持つべきだろ。

リン うん。

ソウマ 俺はいつも誰かから何かを奪って生きてきた。踊ることで誰かに何かを与えようとしてる凜の方が千倍凄いと思うぞ。

リン、マジマジとソウマを見た後、クスッと笑う。

ソウマ どうした？

リン 言葉がいつも真つすぐだなんて思って。お世辞やなぐさめなんかじゃなくて、心から思っ言っ
くれているのが分かる。そういう人と会ったのは初めて。

ソウマ 凜も……。

リン え？

ソウマ 凜も俺が知らない事、気付かない事を教えてくれる。そんな奴は初めて

瞬間、魂が戻る音。

蒼真 会った。

2人、魂が戻った事に笑う。

蒼真 やれやれだな。

凜 うん。

蒼真、空を見上げる。

蒼真

・・・青空か。いいもんだ。

凜、蒼真の横顔をしばらく見た後、何かを思いつく。

蒼真!!

蒼真
ん？

凜 名前!!蒼いに真実の真で蒼真!?

蒼真 俺には勿体なくないか？

凜 ううん!!ピツタリ!!我ながらナイスだと思う!!どう!?

蒼真 蒼真か・・・。呼んでみてくれ。

凜 え？

蒼真 名前、呼んでみてくれ。

凜 えーと・・・蒼真さん。

蒼真 何故さんを付ける？

凜 だって。

蒼真 凜が付けてくれた名前だろ。呼び捨てでいい。

凜 じゃあ・・・蒼真。

蒼真、呼ばれた後、下を向き何かを考える。その様子に不安を感じる凜。

凜 あの、いいんですよ？他の名前でも。また考えますから、気に入らなかつたら遠慮なく言って下さい。

蒼真 そうじゃない。これが名前を呼ばれる感覚か……。凄く嬉しいものなんだな。ありがとう!!

凜 蒼真

ん？
何でもない。

蒼真 蒼真……。蒼真か。よし、じゃあそろそろ行こう。凜を守る為にも武器の調達だ。

凜 うん。

凜と蒼真、下手へ移動。

蒼真 なあ、もう一回呼んでくれ。

凜 呼びません。っていうかもう二度と呼びません。

蒼真 凜は素直じゃないな。

凜 私は素直です!!

2人、会話をしながら去って行く。

照明変化。スクリーンにアジトが映る。

下手後方からキャスリンがデカイ四朗人形を持って入って来る。後ろからスーザンとレベッカ。

キャス ホラ四朗。早く私をつかまえないとどっかへ行っちゃうぞ!!アハハハハ!!

2人 怖い怖い怖い。

キャス きゃあ!捕まっちゃた。もう!そんなに強く抱きしめるなんて、私はか弱い女の子なんだからね!!

レベッカ 昨日アジトに戻ってから部屋に閉じこもってると思ってたコレ作ってたんですね。

スーザン 意外と手先器用なのよ。

キャス 見晴らしの良い所ね!!ここでランチにしましょ!!私頑張ったんだから!!レベッカ、スーザン、

一緒にどっつ?

2人 え!?

キャス たっくさん作ったから遠慮する事ないわよ?サンドイッチに玉子焼き、タコさんウインナーにからあげ。美味しそうでしょ。

スーザン どうする?

レベッカ どうもこうもキャスリンがああなったらコッチが乗つかるまでしつこいんだから、付き合うわよ。

2人、大きく深呼吸した後、テンションを上げて、

レベ わー凄く美味しそう!!

スーザ キヤスリンは料理も得意なんですね!!

キヤス ありがとう!! さ、まずは四朗からよ。あくん。どう? 美味しい?

辺り、シーンとする。

キヤス どうしたの!? まさか美味しくない!? 私の料理ダメだった!?

スーザン、レベツカ慌てる。

レベ モノマネ、モノマネ!

スーザ (男の声に近付けて) お、美味しいよキヤスリン。

キヤス 本当に!? 凄く嬉しい!! 頑張ったかいがあったな。じゃあこれは!?

キヤスリン、四朗人形にあーんをして何かを食べさせるマイム。スーザンそれを見て。

スーザ これは絶品だ!!だし巻きもいいけど、甘いやつの方が好きだな、俺は。

キヤス 今のはイナゴよ?

スーザ イナゴかあ!!キヤスはイナゴも調理できるのか、凄いなあ。あ、足が歯にはさまった。

キヤス じゃあコレは?おかずの定番よ。

スーザ これも凄くいいね。その・・・揚げたて・・・

キヤス そう揚げてるの!!

スーザ 揚げたてじゃなくても美味しいってのはプロ並みだね!!やっぱり鶏のからあげは定番だよ。

キヤス イナゴよ?

スーザ イナゴのからあげね!!キヤスリン、イナゴ好きだなあ。あ、足が歯にはさまった。

キヤス じゃあコレは?

スーザ もう充分!!お腹いっぱいになったから!!いや、これだけ料理が上手だときつと良いお嫁さんになるんだろなあゝ!!

キヤス お嫁さんだなんて!!もう、やだあゝ!!・・・虚しい。

2人 キヤスリン!!

レベ 自由も程ほどにしてもらえませんか。

大和が上手から入って来る。

大和 キヤスリン。

キヤス 何？

大和 少し話が。

キヤス 何。

大和 キヤスリンは最近のアニキの事どう思います？

キヤス 好き。

大和 冗談はバストサイズだけにして下さい。僕が聞いているのはアニキの様子です。

キヤス 様子？

大和 ナヨナヨしたり、僕たちの事を忘れたみたいだったり、そうかと思えばターゲットの方がレベッカの弾をよけたり。

キヤス 何が言いたいの？

大和 あくまで可能性の話ですが、2人は魂が入れ替わってるんじゃないかと。

3人 はあ!?

スーザ アンタ正気？

大和 魂は実際にあつて科学でも実証されています。重さだつてあるんです。

レベ 魂の重さ？

大和 21g。それが魂の重さです。今から百年前の話です。アメリカのダンカン・マクドゥーガル博士が魂の重さに関する研究の成果で発表しています。

レベ そんな怪しい研究なんて、信憑性あるの？

大和 そう、怪しいですよ。他の研究者や博士もマクドゥーガル博士をあっち側の人間として扱い笑いにしました。

レベ でしょうね。

大和 遺体をそのまま放置すれば僅かずつですが乾燥していきます。体内の水分が蒸発すれば21gなんて重さはすぐになくなります。

スーザ だったら。

大和 では、その水分が魂でないという証明は？

スーザ え？

大和 体内にあった蒸発した水分と思われるモノの正体が魂では無いと言い切れる証拠は？

スーザ えーと、それは……。

大和 その問いに答えられた人は一人も居ません。何故なら、魂という存在を否定するからには、魂が何であるかを証明しなければならぬからです。

キヤス 面白い話だけど、それで？

大和 実例があるんです。人の魂が入れ替わったっていう実例が。

舞台後方、下手より陸が入ってくる。手には本。

陸

これはイタリアのジュノアとナポリ、二つの都市で起こった要件である。ジュノアにはニネッタ・ブッジという30歳の女性がいた。彼女は自宅のベランダに出ている時、突然カミナリが落ち、そのショックで気を失った。すぐに病院に運ばれて治療を受けたが、彼女は気が付いた時から妙な事を話し始めた。

大和

私の名前はジコーラ・ムッセーノと言います。住んでいる場所はナポリです。駅に行く途中に突然カミナリにうたれて気を失ったのです。

陸

名前も住所も雷にうたれた状況も、事実とはまるで違う事を口走り始めたのだ。いくら質問しても「自分はニネッタ・ブッジ」という人物ではないと言いつ張る。結局精神が錯乱しているという結論になり、彼女は精神病院へ入れられる事になった。

キャス

カミナリにうたれたショックならそういう事もあるかもね。

大和

でもこの話にはまだ続きがあるんです。

陸

そして、ブッジ夫人がカミナリにうたれたのと同時にナポリで、ジコーラ・ムッセーノという39歳の夫人が、駅に向かう途中でカミナリにうたれてそのまま気を失ってしまった。彼女も病院に運ばれ、気が付いた時に発した言葉は、

大和

私はニネッタ・ブッジと言います。ジュノアに住んでいます。自宅のベランダに出ている時にカミナリにうたれて気を失いました。

陸

彼女も事実とは全く違う主張を始め、いろいろな検査の結果、精神病院に入れられる事になった。

レベ

互いが互いの名前を言い合ってたって事!?

スーザ 分かった!! 2人は友達で、周りの人をからかったんでしょ!?

大和 いえ、2人は互いに面識はありませんでした。完全にアカの他人です。

キヤス それで?

大和 2人はたまたま同じ病院に入院したため、お互いの人格が入れ替わった事が分かったらしいです。

陸 これはドイツのハノーバー心霊科学協会が発表した事実であり、医学的見地からみても説明のつか

ない事件ではあるが、このような人格の入れ替わりは世界中から多数の報告があるという。ちなみに、二つの人格は時間経過によって自然と戻るようである。ただし、それは2人の体が近くにある事が条件である……と。よし、早速報告だ!!

陸、舞台後方上手に去る。

キヤス 成程、四朗が「事情」「事情」って何度も言っていたのはこの事だったのね!! 魂が入れ替わってしまつて仕方なしにあの女の側にいる、と。

レベ 仕方なさそうに見えた?

スーザ ううん。

キヤス もう! それならそうと言ってくれればいいのに四朗ったら照れ屋さんね!

スーザ あの、それでどうするんですか?

キヤス どうするとは?

スーザ 依頼は12月11日までにターゲットを動けなくする事ですよね？四朗さんはチャンスが2週間前と見て出たわけですが・・・魂が入れ替わってるとしたらどっちを壊すんですか？

キヤス それは勿論!!

2人 勿論？

キヤス ・・・・あれ？

スーザ ターゲットの魂は今、四朗さんの体に入ってます。四朗さんの体も壊・・・

キヤス それはダメ!!

レベ ターゲットの体を壊・・・

キヤス それじゃ四朗が痛い思いするじゃない!!

大和 ならいつその事、2人とも壊しちゃいますか!?

キヤス バカな事言ってるんじゃないわよ。

スーザ じゃあどうするんです？何もしない訳にはいかないじゃないですか。

キヤス こうなったら時間の許す限り四朗達の所へ行くわよ!!どこかのタイミングで戻るかもしれない。チャンス待ちつつ、定期的に軽く攻撃する!!

ヤンスを待ちつつ、定期的に軽く攻撃する!!

大和 それってアニキが今回の担当から外れたって事ですよね!?

キヤス しょうがないでしょ。

大和 なら俺が担当します!!

キヤス かんらからから。笑わせないで。アンタには初ミッションがあるでしょ。

大和 まだ旅行から帰ってきてないんですって!!

レベ 随分長い旅行ね。

大和 俺に言われても……。

キヤス 坊やは余計な事しなくていいの。まだ弱いんだから足手まといになるだけよ。

大和 俺が弱い!? 少なくともスーザンやレベッカよりは強いですよ!!

キヤス ミッションが達成できないのはアンタがまだその器じゃない証拠。何ならアンタのミッション2人

に任せてみる?

大和 ……いえ、この依頼は俺がやります。

キヤス ならそれが終わるまで首をつっ込むんじゃないよ。

キヤスリン、下手へ去る。大和、下を向いたまま沈黙する。

スーザンとレベッカ、大和の様子を見て近付く。

スーザ キヤスリンはああ言ってるけど大和には期待してるみたいだよ。

レベ 大切にしているからこそ厳しくしてるんだと思う。だから分かってあげて。

大和 ……何ですかそれ? 慰めですか?

レベ 大和?

大和 俺の方が強いって証明しないと分からないのかなあ……。

スーザ アンタいい加減にしないとね!!

大和 ちょっと付き合ってもらえますか。場所移しましょう。

大和、舞台下手後方に去る。

スーザ ちょっと、何よ。大和!!

スーザンとレベッカ、大和の後を追い去る。

舞台後方上手から芽衣と鳴海が入って来る。芽衣は心底嫌そう。

鳴海 ヘイヘイヘイ!!どーしてだと思っ!!どーしてだと思っ!!どーして子猫ちゃんは僕を受け入れてく

れないんだと思っ!!?

キモイから。

オブラート!!

生理的に受け付けないんじゃないですか?

労り!!

芽衣 何なんですか昨日からずっと私の後を追っかけてグチグチ、グチグチ。オーナーが側にいたいのは

凜なんじゃないですか?

鳴海

その凜君の様子がおかしいから君に探って欲しくてだね。

芽衣

嫌ですよ。おかしいと思うなら直接聞けばいいじゃないですか。

鳴海

いや、こつちにも色々事情があつてだね。

芽衣

何ですか事情って。

鳴海

ほら、その・・・凜君にとっては今回のコンクールがラストチャンスじゃない？下手な人と組んで優勝出来なかつたら・・・ねえ。

芽衣

大丈夫ですよ。今の凜なら一人で踊つたつて優勝出来ませんから。

芽衣

え？

鳴海

まあ気にしないで下さい。

芽衣

気にするよ。どういう事？

鳴海

その辺はオーナーだつて分かつてるんじゃないですか？凜の弱点というか、欠点。

芽衣

それはまあ・・・ただ万が一だね。

鳴海

それが一？

芽衣

いや、だから、ホラ、その何て言うのかなあゝ!!

鳴海

もういいですよ。電話してあげますから直接聞いて下さい。

芽衣

芽衣、電話をかける。下手から凜と蒼真が入って来る。電話に気付く凜。と同時に蒼真にも着信。

芽衣、電話をかける。下手から凜と蒼真が入って来る。電話に気付く凜。と同時に蒼真にも着信。

凜 芽衣からだ。

蒼真 こっちは陸からだ。何か分かったのかもしれない。

凜 よろしく伝えといてくれる？

蒼真 分かった。

2人、電話に出る。蒼真は下手側の台に座る。凜はセンターに座る。

凜 もしもし？

芽衣 あ、凜？今電話大丈夫？

凜 うん。大丈夫だけど、どうしたの？

芽衣 どーしたもこーしたも、アンタのせいでこっちは大変なんだから!!

凜 まさか・・・。

芽衣 分かるよね!?分かつちゃうよね!!でもね、全然ウケないんだけど!!

凜 本っ当にゴメンね。

芽衣 何か色々聞きたい事があるみたいだから答えられる範囲で答えてあげてよ。もう超絶ウザくて。

鳴海 いるよー。本人ここにいるよー。

芽衣 はい、どうぞ。

鳴海 えー。

鳴海、洪々電話を替わる。

鳴海

もしもし子猫ちゃん？

凜

あ、すみません。最近ちょっといろいろありまして……。

鳴海

うん。あるよね。人生色々な事だらけだね。

凜

で、私に何か聞きたい事があるって芽衣が。

鳴海

えーと、あのね、例のパートナーなんだけど、実際の所、実力はどのかなあ〜って。

凜

実力ですか。……正直厳しいですね。

鳴海

そうですか!!

凜

え？

鳴海

あ、いえ。だったらパートナーは僕ちゃんでも良いんじゃないかなあって。ホラ！僕審査員にも顔

が効くし!!

凜

いいんです。今回がダメでも次がありますから。

鳴海

次って……。

凜

私、次のコンクールが駄目でもダンスやめません!!何だったら実費でニューヨーク行って勉強して

きます!!

鳴海

だって今回がラストチャンスだってご両親も。

凜 親は関係ありません。これは私の人生ですから。

鳴海 じゃ、じゃあ僕ちゃんとの婚約は!?

凜 ……すみません。お気持ちはありがたいんですけど……正式にお断りさせていただきます。

芽衣、近くで耳を近づけて聞いている。

芽衣 正式について言うか、ちゃんと断ってたけどね。聞く耳持ってもらえなかっただけで。

芽衣のセリフが終わる瞬間、鳴海、ショックでケータイを落とす。

芽衣 あー!!買ったばかりなのに!!(拾って)もしもし!?凜!?もしもし!?!?!壊れてる!!何て事するんですか!!

鳴海、ぼーっとしている。

芽衣 オーナー?……オーナー!!

鳴海、突然笑い出し、ワンアクション。鳴海、そのまま舞台後方上手に去って行く。

芽衣　ちよつとオーナー。大丈夫ですか!?

芽衣も鳴海を追つて去る。凜、折り返すマイム。つながらない。蒼真の電話も終わる。

凜　陸さん何だつて?

蒼真　魂が入れ替わる事例は意外と世界中にあるらしい。原因は分かかってないが俺達と同じように何らかのショックで入れ替わるらしいな。

凜　落雷とか頭をぶつけるとか?

蒼真　ああ。それから朗報だ。今まで分かっている事例の中で、元に戻れなかったケースは一つもないらしい。やっぱり時間が経つと自然に戻るようだ。しかも互いが近くにいればいる程、その期間は短くなるようだ。

凜　どのくらいの間戻つてれば魂が定着したと言えるのかな?

蒼真　目安としては10日前後らしいな。

凜　そっか・・・陸さん頑張つてくれたんだね。

蒼真　で、そっちは?

凜　芽衣の所に鳴海さんが張り付いてるらしくて・・・。電話を変つたんだけど、パートナーを変えた方がいいんじゃないかって言われた。

蒼真
それで？

凜
ちゃんと断った。パートナーの件もそうだけど、婚約の件も。

蒼真
実は少し聞いてた。断ってたし……あとダンスをやめないうって事も。

凜
今ね、何か踊る事がスツゴク楽しいの!! 私やっぱりダンスが好きなんだなって実感してる。だからやめるなんて勿体なくて。多分、蒼真のおかげ。

蒼真
俺の？

凜
絶対蒼真のおかげ。

蒼真、凜の顔をジッと見る。

凜
な、何？

蒼真
……笑顔って良いものだな。それを守りたいって気持ちになる。なあ、ボディガードって本当にある仕事なんだろう？

凜
え？多分……。

蒼真
この一件が片付いたら組織を抜けて……新しい仕事を探すのもいいな。

凜
……そっか。私のボディガードは期間限定なんかもんね。

蒼真
凜が早く成功して俺を雇えばいい。

凜
え？

蒼真 ニューヨーク。・・・行くんだろ？

凜 うん！

蒼真 その時は格安で受けてやる。

凜 本当!?

蒼真 ああ。

凜 よーし!!ダンスは楽しいし、私の事は蒼真が守ってくれる!!私は私の出来ることを頑張ら

セリフの途中で魂が入れ替わる。

リン なくちゃ!!

リン、腕をあげてガッツポーズを取るが、入れ替わった事に気付く。

2人 まだだ〜!!

BGM、照明、切り変わり、日々が流れるエチュード開始。

① キャス、スーザン、レベッカ、大和が攻撃してくる。撃退。

② 鳴海が部屋に来て凜を説得。蒼真に対して敵対応。

③ 芽衣が部屋に来て凜と会話。ダンスの振り付け等。

④ 陸が蒼真、凜と会話。そこに芽衣が加わる。時折、蒼真と凜が楽しそうに話すのを寂しうに見つめる陸。それを見ている芽衣。

⑤ 凜と蒼真がダンスの練習。周りは上手、下手、上手後方、下手後方で日々を送る。最後、凜と蒼真が笑いながらダンスをしている中、陸、芽衣、鳴海、キャスが電話をかけるマイム曲のポリリウムダウンと共に凜と蒼真以外全員去る。

リン 凄く上手くなったのです。私が教えられる事なんてもう無いかも。

ソウマ 教え方が上手いのか、生徒が優秀なのか・・・。

リン 両方？・・・私も最近基礎ばかりやってたから一段と上手くなったかも。

ソウマ 凜ぐらい上手くても上がいるのか？

リン 世界的に見れば私なんてまだまだ。私より上手い人はたくさんいるよ。

ソウマ そういう奴を見てどう思うんだ？

リン 悔しい。でも負けたくないって思う。

ソウマ 俺よりも凜の方が真っすぐだな。

リン え？

ソウマ もっと簡単な方法があるだろ。凜より上手い奴がいなくなれば、世界で一番になれる。

リン 何人いると思ってるの。それにそういう方法で一番になっても意味ないでしょ。

ソウマ 冗談だ。

ソウマ、言った後、自分のセリフの意味を考える。

リン どうしたの？

ソウマ ……世界で一番じゃなかったとしても日本……いや、一地域のコンクールでなら可能だよな？
そこそこの実力者なら上の数は限られてる。

リン まさか芽衣を疑ってるの？

ソウマ 可能性は高い。

リン それはないよ。エントリーしてる種目が違うのに。

ソウマ それは凜が俺と組む事になったからだろ？元々は？

リン 同じ。でも!!

ソウマ ニューヨークに行けるのは種目別で優勝した中でも特に優れたダンサー一人なんだから？

リン うん……。でも、それでもやっぱり芽衣じゃないよ。

ソウマ どうして言い切れる？

リン 芽衣は友達だけどライバルだから。

ソウマ ん？

リン あ、分かりにくいよね。えっと……。私と芽衣はライバルだけど友達でいられる。何でだと思っ？

ソウマ ・ ・ ・どこかで対等だから、か？

リン そう、私達は対等なの。

ソウマ だがダンスの上手さは圧倒的に凛の方が上だろ。

リン ダンスの難しい所は正確にステップを踏むだけじゃダメって事。同時に表現力も求められるの。

ソウマ 表現力。

リン ううん。むしろ大切なのはそっちかもしれない。だから私は今まで優勝出来なかったんだと思う。

ソウマ あんなに楽しそうに踊っているのにか？

リン それは蒼真と一緒に踊るようになってから。

ソウマ じゃあ・ ・ ・ ・。

リン 芽衣は私に負けるなんてこれっぽっちも思っていないと思うよ。今の私のダンスを見たら分からないけどね。

ソウマ そうか・ ・ ・ ・。悪かった。友達を疑うような事を言って。

リン ううん。依頼をキャンセルさせる事、ずっと考えてくれてるんでしょ？

ソウマ まあな。

リン ありがと。明後日以降は極力外出控えるよにするから。

ソウマ 明後日何かあるのか？

リン ・ ・ ・え？伝えてなかったっけ!? 明後日コンクールだよ!?

ソウマ 何!?

リン 本番、本番!!

ソウマ 聞いてないぞ!!

リン ゴメン、伝えたと思ってた!!

ソウマ 明後日は・・・11日か。・・・11日?

リン どうかした?

ソウマ 凜、今回の壊しの依頼内容をちゃんと伝えてなかったな。

リン え?うん・・・。

ソウマ あまり聞きたくないことだと思って言わなかったんだが、今回の正確な依頼は12月11日までに凜を動けなくするようにという内容だったんだ。凜を動けなくして優勝することが目的なんじゃないかと、凜を動けなくすること自体が目的としたら・・・。

リン そんな・・・。

ピンポーンと呼び鈴が鳴り、芽衣が入って来る。

芽衣 おじやましませーす。おっ。お二人さん練習してましたか。

リン 芽衣・・・。

芽衣 いやいよ明後日がコンクールだね。最優秀ダンサーの座はゆずらないわよ。

リン、無言で芽衣を見る。

芽衣 あら？ テンション低いわね。

リン 芽衣、あのさ、

芽衣 うん。

リン あの……。

リン、下を向いてしまう。芽衣、その空気を察して。

芽衣 違うよ？ 私は壊し屋なんかには依頼してないからね。

リン え……。

芽衣 分かりやす過ぎ。今まで疑ってなかったのに何で急に？

リン それは……。

ソウマ 壊しの依頼が12月11日までに凜を動けなくする事だったからだ。

芽衣 11日までに……。成程、それで私を疑ったと。

ソウマ いや、ダンサーとしてはアンタが犯人じゃないと凜はすぐに否定した。

芽衣 ダンサーとしては？

ソウマ 他に動機があるんじゃないかってな。まあ言い出したのは俺なんだが。

芽衣 それってつまりダンサーとしては信用されて、友達として疑われたって事？

リン ゴメン!!

芽衣 わー。シヨックだわー。無いわー。

リン 本っ当ゴメン!!

芽衣 じゃ許すからおわびに優秀賞ゆずってくれる？

ソウマ コラコラ。

芽衣 冗談。ま、気持ちも分からないでもないしね。「違う」って言葉だけで信じてくれたんだから良しとしましょう。

リン いや、冷静に考えたら芽衣が壊し屋に報酬払えるわけないなって思っ

芽衣 だよね!!ウケる!!

ソウマ 心底愉快的な友達だな。

ソウマ一瞬客席側を見た後、パッと何かを避ける動作。その瞬間ガラスの割れる音。

リン あーまた!!こんな時にレベッカは!!

リン、窓の方へ移動しようとするソウマ、リンの腕をつかみ、

ソウマ 待て、これはレベツカじゃない!!

リン え!?

ソウマ 体勢を低くしろ!!(芽衣に)アンタも!!この殺気・・・殺し屋だ!!

リン 殺し屋!?

ソウマ壁際まで来て壁を背に外の気配を伺う。瞬間、避ける動作。再びガラスの割れる音。

ソウマ 確実にこの体を狙って来てるな・・・。凜!!

リン はい!!

ソウマ 凜はどんな事があっても必ず守る!!俺を信じるか?

リン 勿論!!

ソウマ ・・・陸に電話してくれ。今から行くと。

リン 陸さんの所に!?

ソウマ 殺し屋が出て来たとなったら流石にこの家はマズい。どうにか隙をついて家を出よう。

リン 分かった。

リンと芽衣、舞台後方へ移動。陸へ電話をかけるマイム。

ソウマ、壁越しに外の様子を見ながらキャスへ電話。

舞台後方下手よりキャスリン、レベッカ、スーザンが入って来る。

キャス もしもし!! 四朗!?

ソウマ キャスリン聞きたい事がある!!

キャス 何でアンタが四朗のケータイ使って連絡してくんのよ。

ソウマ そうか。・・・いいかキャスリン落ちて聞いて欲しい。そして信じてくれ俺はな、

キャス 四朗・・・四朗なの?

ソウマ え?

キャス 質問するのが怖かった。そうであってほしい気持ちはあったけど、でももしそうだったらどうしようって・・・。四朗・・・魂、入れ替わってるのね?

ソウマ キャスリン・・・。

キャス どうして四朗の方から相談してくれないのよ!! 私がどれだけ心配したと思ってるの!!

ソウマ すまない。信じてもらえないはずないと思っただし、ミッシェルの事もあったからな。

キャス それは分かるけど・・・。でも何で今になって?

ソウマ 聞きたい事がある。今この体、凜の体が命を狙われた。

キャス え!?

ソウマ 念の为一応確認だ。レベッカじゃないよな?

キャス レベッカならここに居るわよ?

ソウマ となるとやはり殺し屋か。

キヤス 殺し屋?・・・そう、だからか。

ソウマ どうした。

キヤス 昨日の夜、依頼者からキャンセルの電話があったの。

ソウマ キャンセル?

キヤス 他の組織に頼むのかと思ってたけど、殺し屋にいくなんて・・・。

ソウマ 動機は憎しみだったって事か。

キヤス ううん。憎しみに「変わった」んじゃないかな。壊しを依頼した動機と殺しを依頼した動機は違う気がする。同じなら最初から殺し屋に依頼するでしょ?

ソウマ 確かに。

キヤス でも殺し屋の一人くらいなら四朗の方でなんとかなるでしょ?さっさと片付けてアジトに帰って来て!まずはゆっくり話しましょ。今後の事とか。

ソウマ それが・・・。

キヤス 何?

ソウマ こんなに威圧的な殺気を放つ殺し屋は初めてだ。手持ちの武器じゃ太刀打ち出来そうにない。

キヤス 四朗が!?

ソウマ ・・・・3年前お前から聞いていた殺気に似ている。

キヤス まさか!?

ソウマ だから預けてある刀が欲しい。

キヤス 待つて!!それは私の役目よ。知ってるでしょ?その為に私がどれ程の努力をしたか。

ソウマ ああ。

キヤス 移動するなら行き先教えて、即行で行くから。

ソウマ 分かった。

キヤス 四朗・・・気を付けて!!

ソウマ 一つ伝え忘れていた。

キヤス 何?

ソウマ 蒼真。・・・それが俺の新しい名前だ。

BGM、キヤスが聞き返そうとするがソウマ電話を切ってしまう。

キヤス、レベッカとスーザンに指示を出して舞台後方下手へ去る。

リンと芽衣が身を低くしてソウマの近くへ。

リン 陸さんが待つてるって。

ソウマ (頷いて) いいか、俺が時間を稼ぐ。2人は外に出たら人通りの多い道へ向かって走れ。対象が増

えれば増えるほど、狙いが定めづらくなるからな。

リン でもそれじゃ他の人が!!

ソウマ 大丈夫。相手はプロだ。関係の無い殺しはしない。

芽衣 凜、行こう!!

リン すぐに来る!?

ソウマ 勿論だ。すぐに合流する。一緒に陸の所へ行こう。

リン 本当に!?

ソウマ 俺は嘘はつかない。・・・行け!!

芽衣、リンの腕をつかんで下手に去る。その瞬間ソウマ窓から銃で外を攻撃。少しずつ下手へ移動する。向こう側からも攻撃があるので弾丸を避けるソウマ。下手側の窓いっぱい移動したら最後に残りの弾を撃つ。

ソウマ これで向こうがこちらを警戒してくれば時間が稼げるんだが。さて・・・凜を不安にさせる事にはいけないからな。急ごう。

ソウマ、下手に走り去る。舞台後方上手から陸が入って来る。

陸 よって入れ替わりの仕組みは未だに解明出来ていないが、その原因は脳に強い衝撃が与えられる事

と考えられる。つまり2者間に同時に同じ強さの衝撃が与えられれば元に戻る可能性は高いと言え

るだろう。．．．同じ強さの衝撃か．．．しかも同時につて無理ゲーじゃん。やっぱり時間の経過を待った方がいいのかなあ．．．。

ピンポンと呼び鈴が鳴る。陸、少し下手に移動して。

陸
どうぞ。開いてます。

リン、ソウマ、芽衣が入って来る。芽衣は入って来てすぐに上手後方へ移動し、電話をかける。

陸
どうしたんですか急に。何かあったんですか？

リン
それが．．．。

ソウマ
殺し屋が出て来た。今の凜の家じゃ危ないと判断した。

陸
殺し屋!? どうして!!

ソウマ
分からない。．．．とりあえずここに来る間で撒いて来たからな。この家は大丈夫だ。

陸
この家の事より凜様ですよ! アナタが守るんですよね!? 大丈夫なんですよね!?

リン
陸さん?

陸の大声に電話していた芽衣も振り向く。

陸 あ……その、何つって。何つってです。

ソウマ お前……。大丈夫だ。凜は必ず守る。

陸 分かりました。それで、この後はどうするんですか？

ソウマ 守るためにも武器が必要だ。さっき組織に電話したからもうすぐここに届くだろう。ボスは殺し屋

とやる気満々だから俺が出る幕はないかもしれんがな。

リン キヤスリンが？じゃあ殺し屋ってまさか!?

ソウマ そのまさかだ。俺かキヤス、どっちが相手をするにせよ今日中にカタをつける。

陸 相手をする人がいるならその人に任せて、アナタは守る事に集中してもらえると安心なんですけど

ね。体は凜様なんですから。

ソウマ そうだな。

芽衣 これでよし、と。

芽衣、電話を終えて3人の所へ移動。

リン 芽衣まで来る事なかったのに。今からでも遅くないから家に戻って。

芽衣 遅いわよ。今人呼んじゃったし。

リン え、誰？

芽衣
オーナー。

リン
鳴海さんを？どうして。

芽衣
まさか凜まだ分かってないの？

リン
え？

芽衣
ニブイにも程があるわよ。いい？コンクールに出れない。つまり凜が優勝出来なくてメリツトのあ

る人。壊し屋、殺し屋に報酬が払える資金力のある人。凜のスケジュールを探れる人。そんな人一

人しかいないじゃない!!

鳴海
流石芽衣君。察がいいね。

鳴海とゼロ、上手後方から入って来る。

芽衣
オーナー!!

陸
ちよつと待て、僕の家の間取りどうなってるんだ!?

鳴海
ラストチャンスって言ったじゃないか。子猫ちゃん言ってたよね？これがラストチャンスって!!

だから凜がコンクールに出れなければ自分のモノになると考えた？

なのに諦めないってどういう事!? 自費でニューヨークに行くってどういう事!? 新しいパートナーってどういう事!? おかしいじゃん!! 僕ちんがこんなに尽くしたのにさ!!

陸 相手を想う気持ちが増しみに変わったんですか？

鳴海 仕方ないよね!? 僕ちゃんの言う通りにしないなら、思い通りにならないなら仕方ないよね!! どうして僕ちゃんが傷つかなきゃいけないの!? 傷つくの嫌だよ怖いもん!!

リン 鳴海さん……。

鳴海 というわけで子猫ちゃんには死んでもらいまーす!! 後はよろぴく!!

鳴海、後ろへ下がりが、ゼロが前に出てくる。空気が張り詰める。

ソウマ どうするんだ、依頼者を呼べばこうなる事は分かってたろ!!

芽衣 大丈夫。あの人は余計な殺しはしないんでしょ？

芽衣、陸の腕をつかみ2人でリンとソウマの前にて来て壁になる。

リン 芽衣!!

芽衣 (ソウマに向かって) あなたは勘違いしないでね? 凜の体を守ってるだけだから。

リン 芽衣、どうして……。

芽衣 どうして? ……んゝ……友達だから……って理由じゃダメ?

ゼロ 死なないまでも大けがをする事になるぞ?

芽衣 覚悟はできてる。

リン ダメよ!! 芽衣だってコンクールが!!

芽衣 いいんじゃない? 私だってラストチャンスじゃないし、銃で撃たれるのも何かウケるし。

ゼロ これは愉快なお友達だ。さて、仕事にかからせてもらおう・・・

ゼロ、銃を構えながら首をかしげる。

鳴海 どうしたのかな?

ゼロ どっちがターゲットだ?

鳴海 え?

ゼロ 前の壁が2人。男女だな。後ろも2人、男女。あんたから聞いている限りの背格好と、雰囲気はあきらかに後ろの2人がターゲットなんだが・・・この2人、中身と入れ物が違うぞ。

鳴海 そ、それはどういう!?

ゼロ 俺にも分からん、こんなターゲットは初めてだ。だが、俺の感覚がそう言っている。

ソウマ お前、もしかして・・・。

ゼロ、サングラスを少しずらして、

ゼロ ああ。生まれつきでな。だが目で見る以上に見えているぞ。

ソウマ そのようだな。

ゼロ お前達・・・魂が入れ替わってるのか。で、どうする。体を殺すのか魂を殺すのか決めてくれ。

俺はどちらでも構わん。

鳴海 難しくても何だか良く分かんないけど、どっちかっていうなら魂かな!!

ゼロ 了解した。・・・熱い友情は嫌いじゃないんだがな。これも仕事だ。悪く思うなよ。

陸 思いますよ!!

ゼロ、銃口を陸たちに向ける。身構える4人。

キヤス あなたの相手は私よ!!

下手からキヤスリン、スーザン、レベツカが走って入って来る。

陸 ちょっと待て、僕の部屋何畳あるんだ!!

ゼロ お前は・・・あの時の。噂は聞いている。無事ボスの座につけたらしいな。

キヤス あらそれだけ？私がメチャンコ強くなった噂は届いてないのかしら。

キヤスリン、手持ちの武器をガンガンと鳴らす。

ゼロ 武器を変えたか。……良い判断だ。

キヤス 素人は下がってなさい。スーザン、レベッカ、2人を守って。

2人 かしこまりました。

ゼロ 一人で俺の相手をするつもりか。少々強くなったからといって己の力を過信するのは良い判断とは言えんな。

キヤス その余裕、嫌いじゃないわ。だから……ガッカリさせないでよね。

ゼロ、キヤスリン互いに向かつて突進。ゼロの刀とキヤスリンの武器が合わさる。

キヤスリンの力にゼロ、両手になる。

ゼロ お前、化け物か!!

キヤス 失礼ね。こんなに可愛い女子に向かつて。

ゼロ いいだろう。俺も本気を出すとうちうか。

ゼロ、キヤスリン、弾かれたように互いに元の位置へ。構え直し、再び突進しようとした時、銃声瞬間、キヤスリン自分の武器で弾をはじく。

キヤス ……狙う相手が違ってるんじゃないかしら？

大和が下手からゆつくりと入って来る。手には刀と銃。

大和 まったく、勝手に始めないで下さいよ。2人から連絡もらって間に合ったから良かったものの。

キヤス 大和には連絡するなって言ったでしょ!?

スーザ すみません、でも……。

大和 僕が2人に言つといたんです。こういうチャンスがあつたら僕にちゃんと連絡するように。

キヤス チャンスですって？

大和 はい。チャンスです。

ゼロ これは……血のニオイ……お前の刀から新しい血のニオイがするぞ。誰を斬ってきた。

大和 さあ？

ゼロ それにお前の体から発せられる空気……完全にこっち側のものだぞ。

キヤス 大和……あんた……。

大和 悪いのはキヤスリンですよ。いつまでたつても僕を半人前扱いしてしよばいミッションを与えるんですから。

キヤス 事実半人前じゃないか。自分の力に振り回されて格好悪いったらないね。

大和 力を持ったらそれがどれ程のものか確かめたくなるのは当たり前じゃないですか。使わない力なら持っていないのと同じだ。違いますか？

キヤス 違うね。使うことが大切なんじゃない。使えるという事が大事なんだ。

大和 バカバカしい。ねえ？アナタなら分かりますよね？同じ人殺しなんですから。

ゼロ 同じか・・・外道という意味では確かに同じだな。だが・・・俺はお前を否定する。

大和 何故!?

ゼロ お前には哲学・美学・こだわりが無い。それではただの人殺しだ。人を殺す事が目的な奴と一緒にされるのは承服しかねるな。

大和 気取らないで下さいよ。あなたも殺しちゃいますよ？

キヤス も？今あんた「も」って言ったのかい？

大和 どうですかねえ。

キヤス 大和・・・・大和!!

大和、ゆっくりキヤスの方を向く。

キヤス アンタに初ミッションを任せたね？女の子の膝をすりむかせるってやつ・・・・。その女の子今どうしてる？

大和 何ですか急に。

キヤス 誤魔化すんじゃないよ。家族と旅行に行ってるって言ってたね。もう一度聞くよ。．．．それは本当なのかい？

大和 だから、

キヤス あんたの言動がおかしくなってるから探偵使つて家族の事は調べてもらってあるんだよ。今一本電話を入れれば本当の事が分かる。でもね、私は出来ればあんたの口から本当の事が聞きたいんだ。．．．ターゲットの女の子はどうした？

大和、鼻で笑って答ええない。キヤス、ケータイを取り出して電話をかけようとする。

大和 仕方なかったんですよ。ガキがスキをつけて逃げようとするから。いや、ただですね、普通あんなんで死ぬなんて思いませんって!!ちよつと背中斬っただけでポックリいっちゃたんです。笑っちゃいましたよ・

ゼロ それ以来、その時の感触が手に残ってしまったんだろ？

大和 そう!!流石この道の先輩分かってらっしゃる。

ゼロ お前とは違うと言ったろう。殺しの衝動を抑えられないなら半人前と思われても文句は言えんな。

大和 僕は半人前じゃない。僕はここに居る誰よりも強いんだ!!それを証明しに来たんです。もうその辺の素人じゃモノ足りなくて。

芽衣 もしかして最近起きてる無差別殺人って．．．。

大和 人を斬れば斬る程強くなれるんです。僕はもう何人も斬った。さあ、誰が一番強いのかハッキリさせましょうよ。

ゼロ 付き合う義理は無いな。

ゼロ、銃を構える。

大和 スーザン、レベッカ!!

大和に名前を呼ばれたスーザン、レベッカ、それまでリンとソウマの盾になっていたがリンとソウマの方に向き直り、盾になりつつ銃を2人に突き付ける。

ソウマ お前ら、どういうつもりだ!!

レベ 四朗さんに事情があったように我々にも少々事情がありました。

大和 どうします!? あなたがどんなにスゴ腕でもこの状態から二人を一気に殺すのは無理だ!! 殺し屋として依頼が達成出来なくなりましたね!!

ゼロ キサマ・・・腐ってるな。

大和 何とでも言っして下さい。僕は本気のあなた達と戦えればそれでいいんです。

ゼロ いいだろう相手になっでやる。

大和 いやいやいや、銃はカンベンして下さいよ。コレですよコレ。分かるでしょ。

大和、刀を前に出す。

大和 アジトで待ってます。場所は覚えてますか？

ゼロ ああ。

大和 刀持って来て下さい。思いつきりやり合いましたよ!! アニキも……えーと、こっちでしたっけ？
守りたいならちゃんと準備してきて下さい。

ソウマ 準備？

大和 こういふ事です。

レベッカ、ソウマを狙っていた銃をリン変える。
スーザン、銃で大和の方に行くようにリンに指示。移動するリン。

大和 安心して下さい。すぐにどうこうするつもりはありませんから。ただあんまり待たせないで下さいね？僕、待つの好きじゃないんです。さ、行きましょうか。

大和、リン、スーザン、レベッカと去ろうとする。

キヤス スーザン!!レベッカ!!……あんだ達どうして……。

スーザ すみません……キヤサリン。

キヤス え?

大和 下の者は強いヤツに従うってことです。裏の組織なんてそんなもんでしょ。ま、気を落とさずに2人を取り戻すぐらいの勢いで来て下さいよ。

大和、下手に去る。スーザン、レベッカ、ソウマを見た後、無言でリンを連れて行こうとする。

ソウマ 凜!!

リン 大丈夫。……待ってるから。

ソウマ ああ。すぐに行く。

リン、スーザン、レベッカ下手へ去って行く。残された全員が無言。

鳴海 ……あれ?僕ちん何だか置いてけぼりなんだけど。

ゼロ それでも構わんが意思は確認しておく必要がある。依頼は続行って事でいいんだな?

鳴海 え?ん、まあそうだね。続行だね。

ゼロ キャンセルしたとしても無理矢理続行させたがな。．．．ここまでコケにされたのは初めてだ。ア

イツにはしかるべき報いを受けさせる。．．．お前達との決着もそこでつける。いいな？

キヤス ええ。

ゼロ アジトには俺一人で行く。お前達はどこかで待っている。

鳴海 りよーかいだよ。

ゼロ 邪魔したな。．．．分かっていると思うが俺の事は忘れろ。顔も、声も。いいな？

陸 り、りよーかいです!!

ゼロ、舞台上手後方から去る。

陸 だからどつから帰るつもりですか!!

鳴海 じゃあ僕もこれでドロクさせてもらおうかな。

芽衣 あ、オーナーは待って下さい。話があるんで。

鳴海 え？うん。．．．。

キヤス 四朗はどうする？

ソウマ 蒼真だ。

キヤス ．．．はいはい。で、どうする？

ソウマ 預けてある刀が欲しい。何にせよアジトだろ？

キャス ええ。
ソウマ 行くぞ。

ソウマ、キャスリン、下手へ去ろうとする。

陸 あ、あの!!

ソウマ 何だ？

陸 魂の入れ替わりについて僕なりに調べた結果なんですけど、

ソウマ (ケータイをだして) こっちにメールをくれ。移動しながら確認する。

陸 分かりました。それでその、

ソウマ 俺を信じろ。凜は必ず守る。

陸 ……気を付けて。

ソウマ

ああ。

ソウマ、キャスリン下手へ去る。

鳴海 それで芽衣君。僕に話というのは？

芽衣 えーと、正確には話があるのはこの人です。

陸 僕ですか!?

芽衣 あるでしょ?

陸 と言われても……。何を話せば?

芽衣 それは私じゃなくてここに聞いてよ。

芽衣、陸の胸を指差す。

陸 えー……。

芽衣 アレ? ないの?

陸 有りませんよ、何で僕が。

芽衣 凜に関する事だから。

陸 え?

芽衣 私ノリでバカそうに見えるけどさ、これでも私なりに人と真剣に向き合ってるつもりなんだよね。

だからちゃんと分かっている。アンタだからこそ、オーナーに物申す権利があると思ったんだけど、違ったかな。

陸 僕は……。

鳴海 一体ちみは誰なんだい? 凜君とどんな関係?

陸 関係と言われても特には……僕が凜様のファンっていうか……。

鳴海 ああファンね。一方的なやつね。ならいいんだけどさ。
陸 一方的ですか……。ですね。

陸、うつむいて黙ってしまふ。

鳴海 (芽衣に)特に無いようだけど?……。じゃ、僕はこれで。

鳴海、舞台上手後方に去ろうとする。

陸 あなた凜様にホしてるんですか!?

鳴海 ……だったら何?

陸 だったら!!……。分かるでしょ?凜様が好きなのはあなたじゃない。……。僕じゃない。
鳴海 少なくとも君ではないね。

陸 なら見守るしかないじゃないですか。
鳴海 見守る?

陸 アナタ、凜様のどんな顔が見たいですか?泣いてる顔?困っている顔?悲しんでる顔?それとももう動いて欲しくないから死んでもらいたいですか……。違いますよね?笑顔ですよ?本当は凜様の笑った顔が見たいんですよ!!

鳴海 だったら何!?

陸 見守りましょうよ。あなたも凜様を本当の笑顔にする事は出来ません。だから好きな人が好きな人といつまでも一緒に居て笑っていられるように見守りましょうよ!!好きな人の幸せを願いましょうよ!!

鳴海 何なんだいちみは。ただのファンじゃないのか?

陸 ファンですよ。僕は、ただのファンです……。

鳴海 ちみみみたいな何者でもない一般ピーポーが僕に意見する気か!?僕が今まで凜君にどれだけ尽くしてきたと思ってる!!金も時間もだ!!

陸 それは凜様が望んだ事じゃない。あなたが勝手にあなたの判断でした事です。違いますか?

鳴海 僕に意見する気か!!コミュ障のオタク君のクセに!!凜君の願いを何一つ叶えてやれないゴミみたいな男のクセに!!

陸 それでも好きな人の死を望むような男よりはマシだと思えますよ?

鳴海 ……どうしてそんな平気な顔が出来るんだ?自分じゃないんだよ?他の誰かのものになるんだよ?悔しくないのかい?

陸 悔しいですよ。

鳴海 悲しくないのかい?

陸 悲しいですよ。

鳴海 なら憎む気持ちだってあるはずだ。

陸 はい。．．．ぶつちやけ憎いですよ。凜様も．．．あの人も。

鳴海 なのは何故？

陸 しよーがないですよ。それでも好きなんですから。だから幸せを願うんです。それが．．．片思いで終わってしまった者の、せめての意地ってやつじゃないんですかね。

鳴海 ちみは、あれだな。ム力つくな。

陸 すみません。

鳴海 ム力つくよ。僕ちゃんは君みたいなヤツは大嫌いだ。

陸 ．．．すみません。

鳴海 でもまあ．．．下々の者がどういう思考回路を持つのか分かったただけでも得るものがあつたと言えるかな。．．．一っだけ。

陸 え？

鳴海 勉強させてもらったお礼だよ。ちみの願いを一つだけ叶えようじゃないか。

芽衣 何その格好つけ。ウケる。

鳴海 台無しにするのやめてくれるかな。

陸 ．．．殺しの依頼を、キャンセルして下さい。

鳴海 りよーかいだよ。

鳴海、ケータイを取り出して電話をかけようとしてる間、陸が芽衣に話しかける。

陸　でも・・・凄いですね。こんなに男心が分かるなんて。

芽衣　そりやまあこう見えて元は男だし。

鳴海　え？

陸　え？

2人　ええ〜!?

芽衣　昔の話よ？早くキャンセルして。

鳴海　分かりました。

芽衣　何で敬語？

鳴海　・・・出ません。

芽衣　まあ向こうは命のやり取りしてるんだもんね。・・・となったら現地に行くわよ!!

陸　でも場所が・・・。

芽衣　凜のスマホにはGPSが付いてたはず。それを探知するから大丈夫。

鳴海　本当に何者なんだ君は。

芽衣　男だった時に探偵とか色々ね。さ、行くわよ!!

2人　はい!!

鳴海、陸、下手へ走り去る。

芽衣

女の体になってから出会うとはねえ……。本っ当、世の中ままならないモンよ。ま、しょーがない。良い男、見つけなきゃね!!

芽衣、下手へ走り去る。

舞台上手後方から大和が走って入って来る。

大和

いよいよだあゝ！一気に食いまくれるなんて興奮が抑えられないよ！斬って。斬って斬って斬ったら全身に血をドバゝって浴びるんだ！皆の血はあつたかいんだらうなあ。レベッカ！スーザン！人質はもう用済みだから殺してもいいよー！好きにしてゝ！あゝ楽しみだゝ！

大和、下手へ走り去る。

スーザン、レベッカ、リンが舞台上手後方から入って来る。

レベ

とんだ変態ヤローね。

スーザ

人質用済みだって。どーする？

レベ

大和にとって用済みでも私達には。

スーザ

だね。

レベ　　というわけだからもう少しだけ付き合ってもらいましょうか。勿論遊びじゃないから。それなりの覚悟はしてね。

リン　　・・・分かったわ。

スーザ　こっちよ。

スーザン、レベッカ、リン舞台上手後方に走り去る。

上手からキャスリン、ソウマが入って来る。

キャス　どう？久々のアジトは。

ソウマ　ああ。やはりここは俺にとって大切な場所なんだな。しばらく離れてみてそれが良く分かる。

キャス　じゃあ。

ソウマ　だが、もうガキじゃないんだ。自分の帰るべき場所は自分で見つけなきゃいけない。

キャス　それがあの人だって言うの？

ソウマ　あの人？・・・凜の事か？

キャス　私、もう逃げないからちゃんと答えて。あの子の事が好き？

ソウマ　だからそういうんじゃないって言ってるだろ。

キャス　でも守りたいって思うんでしょ？

ソウマ　当たり前だ。

キヤス あの人が笑ったら？

ソウマ ・ ・ ・ 嬉しいな。

キヤス 泣いたら？

ソウマ 嫌だな。

キヤス あのね、四朗。

ソウマ 蒼真だ。

キヤス ・ ・ ・ 相手の事を守りたいって思ったり、笑ってる顔が見たいっていうなら、それはその人の事が

好きって事よ。

ソウマ 何でそんな事が分かるんだ。

キヤス 私も同じ事を思ってるからよ。目の前にいる人に対して!!

ソウマ ・ ・ ・ すまない。

キヤス 謝るのはナシ。みじめになるだけだから。

キヤス、自分の刀をソウマに渡す。

キヤス これ持って行って。丸腰よりはマシでしょ？

ソウマ キヤスリン？

キヤス 私はスーザンとレベッカと話をしてくる。あの二人、何かあったみたいだし。

ソウマ 何か？

キヤス あの友達ね、私の事、キヤサリンって呼んだのよ。

ソウマ そういえば呼んでたな。・・・符合か？

キヤス まあね。これでも裏組織のボスだし。それにあの二人とちゃんと話をするなら私の方が適任でしょ？

ソウマ 凜の事、任せた。

キヤス 分かっている？それって凄く無神経で残酷な依頼だって事。

ソウマ、謝ろうとするが言葉が出ない。

キヤス 受けてあげるから二つの質問に答えて。・・・あの人の事好き？

ソウマ ・・・ああ。

キヤス ・・・じゃあ、しろ。・・・。

キヤス、「四朗」と言いかけて止まる。しばらくの間の後。

キヤス ・・・蒼真はあの人に思ってたような感情、私に対して思った事ある？妹とかではなく、一人の女として、守りたいって思ってくれた事、ある？

ソウマ それは勿論。・・・!!。・・・いや、思った事は一度もない。誰かを守りたいと思ったのは凜が

初めてだ。

キヤス ……そう。……そっか……。私ね、なんでこんなに蒼真の事が好きなのかって正直不思議だったんだけど、今分かった。

ソウマ 教えてくれ。

キヤス 蒼真はその時、その瞬間で私の欲しい言葉をくれるから。だから……。(切り換えて)さ！ここからはお互いにやるべきことをしましょう。私は2人の行きそうな場所に行ってみる。

ソウマ 分かった。

キヤス 自分の刀じゃないんだから気を付けてよ？こっちが解決したら預かってる刀持ってくから、それまで無茶しないで。

ソウマ ああ。

ソウマ、下手に走り去る。その背中を見つめるキヤスリン。

キヤス 本当はね、もう一つ質問したかったんだ……。「大事な大事な四朗の刀。どうして私に預けてくれたの？」って。

キヤスリン、ゆっくり客席の方を向きながら。

キヤス でもね、私、あの人を認めたわけじゃないから。あの人に中途半端な覚悟しかないなら……その時は……。

キヤスリン、舞台上手後方に走り去る。

ゼロが上手から入って来る。センターで止まり周りの様子を伺う。
舞台上手後方より大和が入って来る。

大和 待ちましたよ。僕がどれだけ強くなったか確かめて下さい。

ゼロ お前か……。

大和 何ですか、その残念そうな感じ。

ゼロ 事実残念だからな。

大和 ならんか偉そうなんですよね。あなた外道じゃないんですか？

ゼロ ああ。俺は自らの命をつなぐ為に他人を殺めている外道だ。許される事じゃない。だがな、それでも俺は人であるうと……人でありたいと願っている。

大和 伝説の殺し屋が情けない事言わないで下さいよ。憧れていた人がメンタル弱いなんて幻滅ですね。

ゼロ 弱い……俺がか。

大和 あれ？カチンときちやいました？

ゼロ いや、俺にとっては褒め言葉だ。お前には分からんだろうがな。

大和 だから、俺をバカにするなって言ってるだろ!!

大和、ゼロに襲いかかる。大和とゼロの殺陣。ある程度の手数を経た後、両者離れる。

ゼロ やはりお前と刀を交えても高鳴るものはないな。どんなに強かろうがそんな奴の相手をするのは美学に反する。

大和 美学とか哲学とか、そんなメンドーな事に縛られてて……。僕からすれば窮屈な生き方してるあなたが可哀想ですよ。

ゼロ 俺にとってお前の言ってる事は全て救いだ。挑発にはならんよ。さて、ターゲットを探そうか。

ゼロ、舞台上手後方に走り去る。

大和 ……どうしてだよ。どうして誰も俺を見ようとしなないんだ。強ければいいんでしょ？強ければ僕を認めてくれるんでしょ？殺した人達は皆そうだった。殺す瞬間は皆恐怖しながら僕を見てくれたんだ。だからさ……。殺してやる。

大和、ゼロの後を追って上手後方に走り去る。

リン、スーザン、レベッカが下手から入って来る。

レベ　そこで止まって。

リン　あなた達、何でキャスリンを裏切ったの？

スーザ　余計な話はいいです。しばらくここで待っていて下さい。

リン　待つ？

下手からキャスリンが入って来る。

キャス　私の部屋にいるのかと思ったのに。探したわよ。

レベ　すみません。

キャス　ついでに刀取って来れたからいーけどさ。

リン　え？あれ？

キャス　何、素っ頓狂な声出して。

リン　2人・・・裏切ったんじゃないかなったんだ・・・。

キャス　これでも一応組織のボスなんです。2人に事情があって直接何かを伝えられない場合、名前の呼び方を変える事によって伝える符合を決めといたのよ。

レベ　あの時、私達はボスの事をキャサリンと呼んだ。

スーザ　キャサリンは「組織に裏切り者が出た場合、その動向を探る為、スパイとして一時的に裏切ったフ

リをします」というサインなんです。

キヤス でも大和の裏切りくらいなら私に言えばよかったのに。

レベ いえ、……以前、大和と本気でやり合った時、2人がかりでしたが一瞬でやられました。大和は

キヤスリンが思ってる以上に強くなっています。

スーザ それで、大和から自分に協力しないとキヤスを殺すと脅されてて……。

キヤス そっか……すまないねえ。

レベ いえ、キヤスリンの為なら……。

キヤス そうでなくて。私の本気見せた事なかったでしょ。

スーザ え？

キヤス さっきゼロと刀合わせてみて分かった。私ね、例えゼロが本気出したとしても、三秒で勝てる。

スーザ はい!!?

キヤス いやマジで。

レベ どんだけ化け物なんですか。

キヤス ホラそうやって引く!!だから教えたくなかったのに。

スーザ でもそれならさっさとキヤスに相談すればよかったですね。

レベ 確かに。あ、じゃあ四朗さんとだったらどっちが強いですか!?

キヤス 蒼真だって。

レベ え？

キヤス 四朗は・・・もうこれから蒼真なんだってさ。

レベ 蒼真？

キヤス ・・・・そうなんですよ？

リン うん。私がつけた。

スーザ だって前にキヤスが四朗さんの名前つけようとした時は!!

レベ スーザン。

キヤス ・・・・その名前、気に入ってるみたいだった。

リン そう。

キヤス 顔は同じなのに中身が違うだけでこんなにトキめかないものかしら。意外というか当然というか・・・で、この場を解放されたとしたら、アンタどうするの？

リン 蒼真の所に行く。

キヤス 殺し屋と殺人鬼と戦ってるのよ？足手まといになるだけじゃない？

リン ・・・・でも、それでもやっぱり行く。

キヤス ・・・・そう・・・。

キヤスリン、蒼真の刀をジッと見て何かを考えている。

スーザン、レベッカ、そんなキヤスリンを見て2人うなずいた後わざとらしくらいの大笑い。

スーザ キヤスリンもお人好しですね！符合だ何だなんて、そんなの私達が裏切らない事前提じゃないですか。

レベ 甘い。甘すぎます!!どうして私達が絶対に裏切らないと言い切れますか!!

キヤス どうしたの急に？

スーザ 実は私達、ゼロの下についたんです。

キヤス は？

レベ やっぱり殺し屋の方がお金良いんで。

キヤス 何バカな事言ってるの。

レベ バカな事じゃなくて事実です。その証拠に……。

レベッカ、銃をリンの頭につきつける。

キヤス レベッカ!!

スーザン、ポケットから青い小瓶を取り出す。

スーザ これを飲んで下さい。

リン これは？

スーザ 今の話聞いていたなら分かりますよね？

リン 自分の意思で死ねと。

スーザ 私も直接の人殺しはねえ。寝覚めが悪いつていうか。

レベ それにアンタにとってメリットもあるし。

リン メリット？

レベ キヤスリン。その刀、こっちに渡してもらえます？

キヤス アンタ達……。本気なの？

レベ 本気も本気。大マジってやつです。だから早く渡して下さい。

キヤスリン、レベツカに刀を渡す。

スーザ えーと……蒼真さんでしたっけ？今、蒼真さんは命がけで戦っている事でしょう。慣れない武器を使って。

レベ これは蒼真さん愛用の刀ですが……。キヤス、この刀を使わなかった場合、蒼真さんがゼロや大和に勝てる確率は？

キヤス ……高く見積もっても……8%。

リン 8%!!?

スーザ で、メリットの話です。これを大人しく飲めばこの刀はあなたに差し上げます。

キヤス スーザン!!

レベ 動かないで下さい!!

スーザ ・ ・ ・ どうしますか? この刀はあなたにとってメリットになりませんか?

リン 一つ聞いてもいい?

スーザ 何です?

リン これ飲んでから死ぬまで ・ ・ ・ どのくらい猶予がある?

スーザ 少なくとも6時間。刀を渡すだけなら十分な時間ですね。

リン そう ・ ・ ・ なら、確かにメリットだわ。

リン、スーザンから小瓶を取って一気に飲み干す。

リン この刀は、私が命をかけてもらったモノだから、私が渡す。でも ・ ・ ・ もし、それでも蒼真に何かあったら ・ ・ ・ キヤス、お願い。蒼真を助けて。

キヤス アンタ ・ ・ ・ 短かったクセに。一緒に居る時間、私なんかよりずっと短かったクセに。しっかり惚れてんじやない。

リン 頼んだわよ。

キヤス 任された。

リン、下手へ走り去る。キャスリン、その背中を見送る。

キャスリン、下を向いてスーザンとレベッカに背中を向けたまま

キャス ・ ・ ・ 覚悟は出来てるんでしょうね？アンタ達の事、大好きだったけど、ボスとして責任は果た

させてもらうわよ？

レベ まあ仕方ないですね。

キャス 信じてたのに ・ ・ ・ どうして ・ ・ ・ 。

スーザ キャスリン、キャスリン。

キャス 何よ!!

キャスリン、バツと2人の方を振り返る。レベッカ、ガツとキャスリンの体をつかむ。
スーザン、手に持っていた青い小瓶の中身を飲ませる。

キャス ニガツ!!超ニガツ!!何これ!?

スーザ スーザン・ビューティスペシャルドリンク・マキシマムエグゼです。

キャス ビューティスペシャル？

スーザ 高濃度のコラーゲンとコエンザイムQ10 新鮮なローヤルゼリーを交ぜた上、ビタミン・ミネラル・カルシウムに加え、マカ・アルギニンにスッポンエキスをブレンドしたスペシャルなドリンクです。

キヤス え？

レベ 安心して下さい。毒じゃありませんから。

スーザン、リンが去って行った方に向かつて

スーザ お肌プルプルになってイチャイチャするがいい!!

キヤス 何で？どゆこと？

スーザ 踏ん切り、つけたかったんですね？

レベ 蒼真さんの刀を預けるのに値する人かどうか。試したいんじゃないかなあと思って。

キヤス じゃあ。

スーザ 私達が裏切るわけではないですか。

レベ キヤスリンはあの二人が不幸になって喜ぶような人じゃないってのは付き合いの長い私達が一番分か

かってますから。

キヤス レベツカ。．．．スーザン。

スーザ で、どうですか？少しは気持ちに決着つけられましたか？

キヤス ．．．あんた達は本当にもう!!ついた、ついた、つきました!!完全にスッキリしちゃった!!2人

のおかげ!!ありがとね!!

スーザ キヤスリン．．．。

キヤス スッキリしたらお腹空いたわね。焼肉行くわよ、焼肉!!んで、その後はカラオケで失恋ソング一万曲メドレーいくわよ!!

2人 ひえ〜!!

キヤス でもその前に……一つやる事あるけどね。

レベ 何です?

キヤス バカな末っ子の尻、拭いてやんなきゃ。

スーザ ですね。

キヤス 行くわよ。

2人 はい。

キヤスリン、スーザン、レベツカ、下手へ走り去る。

ソウマ、舞台後方下手から入って来る。刀を抜いて数回振る。

ソウマ ……やれやれ、これどこまで出来るか……。

ゼロ、上手から入って来る。両者睨みあった後、互いに袈裟斬り。

ゼロ 強さは若干劣るか?だが、これだ。人間として真つすぐな魂が胸を高鳴らせてくれる。

ソウマ 何だよ。アンタも強いヤツと戦いたってクチか？

ゼロ 腕に覚えがあるなら誰しもそうだと思うが？依頼は依頼。プロとして全うするがこんな機会は滅多にある事じゃない。

ソウマ 段取りが多くて大変だな。それはこだわりか？それとも、

ゼロ 美学だ。

ソウマ それがアンタなりの適合ってわけか。

ゼロ、ソウマ互いの刀をはじき、上手、下手へ離れる。

ゼロ 俺を笑うか？

ソウマ まさか。似たようなもんだ。俺もな。

ゼロ、少し笑う。

ソウマ 何がおかしい。

ゼロ いや、もし目が見えていたらその姿に油断していたかもしれないと思ってな。世の中何が幸いするか分からん。

ソウマ 油断しなければ負けられないような言い方だな。

ゼロ 先程刀を交えた時、理解したはずだ。お前では俺に勝てん。倒され、そして死ぬ。

ソウマ この体にはな、命にかかわる事どころか・・・小さな傷一つつけるわけにはいかないんだよ。

ソウマとゼロ、再び刀を交えようとした時、舞台後方上手から大和が入って来て2人の刀を止める。

大和 横取りはダメですよ。アニキを殺すのは僕なんですから。

ソウマ 大和・・・それがお前の本性なのか？

ゼロ 安心しろ。一時的に闇に飲まれているだけだ。良くも悪くも純粹なんだろう。

大和 適当な事言わないで下さいよ。あなたに僕の何が分かるって言うんです!?

大和、刀を払って三人の2く3手の殺陣、

ゼロ 先ほどと言ってる事が違うぞ。俺達は似たもの同士と言ってなかったか？

大和 似ている事と理解することは別物だと思えますけどね！

大和、大きく刀を振り上げた時、その刀をソウマが止める。

ソウマ キャスから託されてるんでな。そいつを倒すのは俺の役目だ。

大和 邪魔しないで下さいよ。アニキの相手は後でゆっくりしますから。
ゼロ ナメられたものだな。俺とやり合って次があると思っっているのか。

3人、2と3手の殺陣。3すくみになって止まる。

ゼロ これは面倒な状況だな。

大和 笑える状況とも言えますね。

ソウマ どうしてそんな風に平気でいられる。お前は多くの人の命を奪ったんだぞ!!

大和 だから何ですか。僕に殺されたのは弱かったからです。弱いヤツには文句を言う資格がないんですよね? そういう風に教えたのはアニキとボスじゃないですか!!

3人が同時に動く。体勢が変わって止まる。

ゼロ 分かってやれ。根本にあるのはお前達に自分を見て欲しいというカワイイ甘えなのだから。

大和 黙れ。

ゼロ 実は期待されてるといふ事に気付かず、焦りと不安だけが積もっていったのだろう。

大和 黙れ

ゼロ その不安が一人の人間を殺してしまった事によって爆発した。そうだろう!

大和
黙れ!!

大和、ゼロに攻撃をする。三人の殺陣。途中ソウマが膝をつく。

ゼロ
女の体ではそれが限界か。

大和
苦しいですか？今、楽にしてあげますよ。

ゼロ、大和同時にソウマに向かって刀を振る。

リンが舞台上手後方より入って来る。

リン
蒼真!!

リン刀を前へ。

刀は鞘に収まっており、柄の部分をリンが剣先の方をソウマが持ち刀身の部分にゼロと大和の刀が来て受け止める。

ゼロ、大和、同時に刀に力を加え、力を横にずらす。

リンは舞台後方に飛ばされるが踏み止まる。ソウマは横に飛ばされる。大和も体勢を崩す。

ゼロ、そのままソウマに向かって行く。リン刀を振り回し、ゼロを離れさせる。2〜3手の殺陣。

ゼロ 素人にしてはやるようだな。

リン ダンサーは結構スゴイんです!!

大和 ふざけるなよ……。

大和、ゆっくりリンの方へ歩く。異様な雰囲気。

大和 何だよアンタ。アニキの顔してふざけた事してんじゃねーよ!!

大和が刀を振り下ろす瞬間、ゼロが止める。

ゼロ これは俺のターゲットだぞ。

大和 邪魔だー!!

大和、圧力を強める。押し込まれるゼロ。

ゼロ コイツ!? 仕方あるまい。依頼達成を優先する。悪く思うなよ。

大和、ゼロ、互いの刀をはじき合い、リンに向かって大きく刀を振る。

ソウマ
凜!!

ソウマも立ち上がりリンの元へ。リンも刀で何とか受け止める。大和とゼロの気合い。その瞬間、雷の大音量。リン、ソウマ飛ばされる。

シーンとした間。凜、蒼真2人ゆっくり起き上がる。無事な2人を見て驚くゼロと大和。

蒼真
凜!!

大丈夫。少し擦りむいたけど。

蒼真
何!?

蒼真、凜の腕を見る。

蒼真
大丈夫なのか!?

凜
大丈夫だって。ダンスの練習してたってこのくらいのケガは……蒼真?

蒼真
大和……。ゼロ……。

凜
ちよっと!大丈夫だよ!大丈夫だからね!?

蒼真 お前等……覚悟は出来てるんだらうな？

ゼロ 殺してやる……とでも言うつもりか。

蒼真 殺す？いや。むしろ凜の前で人殺しなんかしたくないんでな。死んでくれるなよ？

大和 じゃあどうするって言うんです。

蒼真 虫けらどもが。死んでしまいたい程の屈辱を味わうがいい。

凜 言ってる事が完全に悪の親玉なんですけど。

蒼真、愛刀を抜く。

大和 体も中身もアニキ……そして愛刀。これで百パーセントってわけですね。本気でいかせてもら

います!!

大和、蒼真に向かって行く。蒼真、大和の刀をはじいた瞬間、刃を大和の喉元へすべらせる。(この時刀の刃は返しておく)

大和 え……？

蒼真、大きく刀を振って峰打ち状態から元に戻す。

蒼真

凜。

凜
ん？

蒼真
少し下がってくれるか？危ないからな。

凜
分かった。．．．どうする？少しくらい心配した方がいい？

蒼真
よせ、照れる。

凜
だよね！

ゼロ
ほのぼのか!?

ゼロ、蒼真へ向かう。数手の後、ゼロを斬る（峰打ち状態）

蒼真
これで一回ずつ。大和。

大和
え、はい。

蒼真
どうした、かかって来ないのか？

大和
アニキ．．．。

蒼真
来るよな？．．．来いよ．．．来いって．．．来い!!

大和、蒼真の声を受けてかかって行く。数手で斬られる大和。

大和が斬られた瞬間、ゼロも蒼真の方へ向かって行く。同じく斬られるゼロ。

蒼真　いちいちショックを受けるな面倒くさい。この際、同時に来いよ。

凜　確かにコレはメンタルに来るわね。

大和　本気のアニキ・・・こんなに強かったんですね。

蒼真　何を言ってる。俺はまだ30%も出してないぞ。

大和　え!?

蒼真　せめて半分くらいは引き出せるように頑張れ。あ、ちなみに凜を人質にとろうとしても無駄だぞ？

それだけはさせるつもりないからな。

ゼロ　分かっている。その女の方に行こうとした時だけムキになっているだろうお前。

凜　そうなんだ!!

蒼真　バラすのやめろよ。

大和　何なんですか。こっちは命取りに行ってるのにその余裕は。

蒼真　余裕だからな。悔しいと思うなら全てを吐き出せ。(ゼロに)あんたもな。

ゼロ　受け止めきれぬのか？

蒼真　遠慮するな。全身全霊をかけてかかって来い!!

蒼真、ゼロ、大和の殺陣。ゼロと大和は何度も蒼真に飛ばされる。

しかし表情は段々と明るくなる。蒼真、都度発破をかけて向かって来させる。しかしゼロと大和も動きが鈍くなる。ゼロ、蒼真に大きく上手に飛ばされた時、上手から鳴海、陸、芽衣が入って来る。鳴海、ゼロの背中を受け止める。

ゼロ お前……。

鳴海 あの、ここまで頑張ってくれた殺し屋君には大変申し上げにくい事なんだけどね、その……今回の依頼キャンセルって事で一つどうか。

ゼロ キャンセル？

鳴海 あ、勿論、ちゃんとお金は払うから安心してね。

ゼロ そうか……俺は依頼を受けてここに来たんだっとな。

鳴海 え？

ゼロ いや……。お前それでいいんだな？後悔はしないんだな？

鳴海 うん……。大丈夫。

ゼロ そうか。ならば依頼主の意向に従おう。

鳴海 助かるよ。

鳴海、凜に近づいて。

鳴海 子猫ちゃん。僕ね、本気だったんだよね。思いが抑えられないくらい。本気だったんだよね。

凜 ありがとうございます。．．．でも、

鳴海 分かっている。ありがとうございますって言ってくれてありがとうございます。

蒼真 どうする？コイツ、訴えるか？

凜 ううん。大丈夫。．．．もう大丈夫。ですよ？

鳴海、無言でうなづく。

陸 凜様．．．戻られたのですね？

凜 はい。陸さん、色々協力してくれてありがとうございます。

陸 いえ．．．ファンなら当然の事ですよ!!

芽衣 へえ。そこは貫くん。強いじゃん。

陸 意地ですから。

蒼真 さて、後はお前だな。

蒼真、大和に近づく。下手からキャスリン、レベッカ、スーザンが入って来る。

キャス 大和の事はこっちに任せて。．．．さ、行くよ。

大和 どこに？

キヤス 罪は償わなきやでしよ。

大和 組織で肅清ですか。

レベ 警察よ。

大和 警察!? 組織の掟では・・・!!

スーザ 組織としてはアンタを許すってさ。

大和 許す!? 正気ですか何の得があって!!

キヤス このスカポントン!! 家族だからでしょ!! アンタがどんな奴でもどんな事をして、絶対に見捨てない。それが家族つてもんでしょーが!!・・・ちゃんと償ってくるんだよ。そうしたら帰ってくればいいさ。何年だろうと私達は待っててやるから。そしてそこから本当の償いが始まるんだからね。

大和 ・・・・分かりました。

キヤス、蒼真の方へ行き、

キヤス 約束、守ってくれたんだ。

蒼真 何とかな。

キヤス ありがとう。

蒼真 ああ。

キヤス ・ ・ ・落ち着いたら一度戻って来なさいよね。色々話し合わなきゃ。
蒼真 分かった。

キヤスリン、蒼真の顔を見つめているが何も言えない。

スーザ キヤスリン、そろそろ。

キヤス そうね。行きましようか。

キヤスリン、スーザン、レベツカ、大和、下手へ移動する。キヤスリン、途中で止まり振り返る。

キヤス 凜!!

凜 な、何？

キヤスリン、スーザンから青い小瓶を奪って一気に飲む。

キヤス ニガッ!! やっぱすっごいニガッ!!

スーザン 何やってるんですかもう・ ・ ・。

キヤス　・・・って事だから!!

凜　キヤスリン・・・。

キヤス　こんなマズいの良く一気に飲んだわね!! バカじゃない!!

凜　でもキヤスも私と同じ立場だったら一気に飲んでたと思う。

キヤス　なわけないでしょ。・・・私はアンタとは違うんだから。・・・さ、行くよ。

キヤスリン、スーザン、レベツカ、大和、下手へ去って行く。

芽衣、ふと腕時計を見る。

芽衣　あゝ!!

全員、バツと芽衣を見る。

芽衣　こんな時間!! 即行で移動しなきゃ!!

凜　え?

芽衣　コンサート会場こっちからかなりあるからダッシュで行ってもギリギリだよ!!

凜　蒼真。

蒼真　分かった。すぐに移動しよう。

芽衣 まあいざとなったらオーナー。お金の力で審査員に話つけてね。

鳴海 はい。分かりました。

凜 何で敬語？

芽衣 凜!!出る種目が違うとはいえ最優秀ダンサーに選ばれるのは一人だけ。負けないわよ!!

凜 楽しそう。

芽衣 アンタって変な所で天然ね。さ、行くわよ!!

照明変化。凜と蒼真を残して全員去る。熱気につつまれた会場の音。

蒼真 凄い盛り上がりだな。周りのダンサーの顔つきも全然違う。

凜 皆、一回の勝負にかけてるからね。

蒼真 ・・・なあ本当に俺がパートナーでいいのか？大事な所でミスるかもしれないぞ？

凜 どうしたの急に？

蒼真 凜にとって大切なチャンスだろ？俺が足を引っ張るわけにはいかない。

凜 今まで蒼真と練習してきたんだから今から他の人となんて無理だよ。

蒼真 そうかもしれないが。

凜 それにミスしてもいいじゃない。蒼真が思い出させてくれたんだよ？ダンスは楽しまなきゃ。

音楽が小さく流れ出す。

凜
始まった。．．．いつも通りやれば大丈夫。手を取って。踊って。笑お？

曲が大きくなり2人、踊り始める。ある程度の所でフェードアウト。
曲が下がり始めたらダンスもゆっくり止まる。2人前を向く。

S
E

これで全てのダンサー達によるパフォーマンスが終了致しました。今回はハイレベルな戦いで審査員も頭を悩ませました。最優秀ダンサーには自信を持ってニューヨークへ行き、更なる飛躍を期待したいと思います。それでは発表します。最優秀ダンサーに選ばれたのは．．．．

大歓声で続きが聞こえなくなる。凜、一瞬喜んだ後、すぐに複雑そうな顔をする。蒼真、凜をジッと見ている。大歓声は続いている中、照明センターにサスだけになる。

蒼真、上手に去る。凜、一人だけに残り、ゆっくり下を向く。

プロジェクターに成田空港が映る。

搭乗アナウンスなどが流れる。

上手袖から芽衣の声。

芽衣
凜!!

照明、明るくなる。上手から芽衣、鳴海、陸、キャスリン、レベッカ、スーザンが入ってくる。

芽衣
良かった。空港なんて滅多に來ないから場所わかんなくてさ。オーナーは使えないし。

鳴海
ハハッ。オーナーに向かって使えないはどうかと思うよ。

凜
すみません。お忙しいのに。

鳴海
全然だよ。

蒼真、キャリアケースを持って入ってくる。

蒼真
荷物置いてくなよ。

凜
ゴメンゴメン。

蒼真、周りを見て後方のベンチに移動。

芽衣
チケットは？

凜
大丈夫。

芽衣 頑張ってるね。片田舎のナイトクラブで一生終わったらウケるけど。

凜 ちよつと。

芽衣 冗談。成功するの心から祈ってる。

凜 ありがと。．．．陸さんもありがとございました。

陸 いえいえ！お役に立てたかどうか．．．。でも約束守ってくれてありがとうございます。玲

凜 亜ちゃんのコスプレコンサート、最高でした！！

陸 はい。アレやってフツ切れました。色々。

凜 映像DVDにしましたんです！！宝物にします！！

凜 は、はい．．．。

鳴海 体に気を付けてね。子猫ちゃんなら大丈夫さ！！自信もって！！

凜 はい。．．．あの！

芽衣 ストップ。

凜 え？

芽衣 凜からは声かけない方がいいと思うよ。そうはいつでも心のかさぶたまだフニャフニャだから。

鳴海 ふぐつ！！

鳴海、涙をこらえる

凜 キヤスリン達も。わざわざ見送りに来てくれてありがと。

キヤス ニューヨークだって？

凜 うん。

キヤス バカよね。バカじゃん。……バカだよ。

凜 かな。

キヤス 私は夢を優先したと解釈するから。

凜 うん。

キヤス うんじゃないわよ。バーカ、バーカ!!

レベ ケンカ売りに来たんですか？

スーザ こんな感じですけどね。見送るって言い出したのキヤスなんです。

凜 そっか。ありがと。

キヤス 3年。……3年以内に絶対結果出して。それ以上は待たないわよ？

凜 分かった。絶対。

全員、無言になる。キヤスリン、蒼真の方へ移動。座ってる蒼真の足を蹴る。

蒼真 いて。

キャスリン、蒼真を見た後、レベッカ、スーザンの方を見る。うなづくレベッカ、スーザン。芽衣、陸、鳴海も互いに目くばせ。

芽衣
じゃね。頑張って。

キャスリン、レベッカ、スーザン、芽衣、陸、鳴海、上手へ去る。

蒼真
何だアイツ等。折角来たんだから搭乗口まで見送ればいいのにな。
みんな忙しいんじゃないかな。でも来てくれただけで凄く嬉しい。

凜、蒼真の所へ移動し座る。

蒼真
忘れ物はないか？

凜
大丈夫。

2人、何となく気まぎれになり空港の行きかう人を見る。

凜
蒼真はニューヨーク行った事ある？

蒼真 いや。そもそも海外に行った事がない。

凜 そうなんだ。

蒼真 ・・・キヤスの事は言えないな。俺の世界も狭い。

凜 じゃあ行ってみる？

蒼真 席空いてるといいな。フィッシュオアビーフって聞かれてみたい。

凜 日本の航空会社だから普通に日本語で聞かれると思うよ？

蒼真 それは残念。

2人、少し笑って再び周りを見渡す。

蒼真 俺達・・・。

凜 ん？

蒼真 魂は完全に戻ったのかな？もう二週間経つが・・・。

凜 どうだろ。確認がないからね。

蒼真 凜が向こうに行った瞬間、入れ替わったら俺のパニック半端無いぞ。

凜 そっか・・・それはゴメンで済む問題じゃないね。

蒼真 多分のたれ死ぬんじゃないか俺。

凜 いや、体は私だし！・・・でもそっかー。可能性は無いとは言いきれないもんね。・・・もし入

れ替わったら困るもんね……。なら行くの、

蒼真　なんてな。いつまでも不安がってられないし。可能性を見るってなら、前向きな可能性を見ないと。

凜　うん……。

蒼真　俺は尊敬してるんだ。どんな状況でも前向きにチャレンジしてる凜を。初めて俺と会った時も、依

頼者を探そうとした時も、俺にダンスを教えてくれた時も、いつもチャレンジしてた。で、今こう

してまた新しい事にチャレンジしようとしている。俺はそんな凜を尊敬してるんだ。

凜　……ありがと。だとしたら止まってられないね。

2人、無言になる。やがて蒼真、スツと立って。

蒼真　どうにもしんみりした感じは苦手だ。俺も見送りはここまででいいか？

凜　うん。

凜も立ち上がる。

蒼真　体に気を付けて頑張れよ。

凜　蒼真も無茶しないようにね。新しい仕事するんでしょ？

蒼真　ああ。

凜 頑張つて。

蒼真、大きくうなずいた後、凜に背中を向けて上手に去ろうとする。凜、その背中に思わず声をかけてしまう。

凜 蒼真。

BGM。蒼真、ゆっくり振り返る。凜の近くへ移動する蒼真。

蒼真 どうした？

凜 一つだけお願い聞いて欲しい。

蒼真 何でも言ってくれ。

凜 握手。．．．握手して。

蒼真 握手？

凜、手を差し出す。応える蒼真。

凜 この手が私を守ってくれたんだね。ありがとう。

蒼真 守るも何も・・・最後の方は完全にとぼっちりだったろ。

凜 そうじゃなくて何て言うか・・・いいの！蒼真は私を守ってくれたの！！

蒼真 そうか。守れたなら良かった。

凜 私これまでずっと普通に暮らしてきたけど、この一か月間、夢みたいに楽しかった。ドタバタして大変だったけど楽しかった。蒼真は？蒼真も少しは楽しいと思ってくれた？

蒼真 勿論。一緒に食事をした事も、ダンスの練習をした事も、公園に出かけた事も。全部楽しかったし、

心から笑った。

凜 なら良かったのです。

蒼真 そういえば料理。

凜 ん？

蒼真 俺の健康を考えてレ。パーティー増やしてくれたんだろ？

凜 別に蒼真の為じゃないし！！私が食べたかったからだし！！

蒼真 凜は素直じゃないな。

凜 私は素直です！！私は・・・素直なんです。

蒼真 ・・・・そうだな。

凜 私ね、目標があるの。

蒼真 どんな？

凜 教えない。

蒼真

何だよそれ。

凜

今はまだ言えないもん、今はまだ何もなしとげてないから。それに……。

蒼真

それに？

凜

約束をしたってわけじゃないから蒼真はもう忘れちゃってるかも。何でもない会話の延長だったし。でも、私にはそれが頑張れる、元気の源。

凜、蒼真の手を離す。

凜

私もしみみりは嫌だから。ありがと。行って。

蒼真

……元気だな。

凜

うん。

2人、静かにうなずき合う。蒼真、ゆっくり上手に去って行く。

凜、その背中を見つめる。一人になる凜。

凜

蒼真のイジワル、ニブちん。そりゃニューヨーク行くのは私の都合だけだよ……自分勝手。ワガママだって分かっているけどさ……、一回くらい。一度でいいから言ってみてよ。「またな」って。待っててくれるんだって思わせてよ。私ばかり色んな事覚えててバカみたい……。

凜、下を向いてしまう。蒼真上手から少し入って来て凜を見る。

蒼真

覚えてるぞ!!ちゃんと覚えてる。約束したもんな。あれは約束だ。だから頑張つて有名になれ。有名になって俺を雇え!!

凜

・・・うん!

蒼真

またな!!

凜

・・・またな!!

蒼真、大きく手を振る。凜も大きく振り返す。2人、上手、下手を向いてそれぞれ去って行く。BGM、大きく。照明次第に暗くなる。BGMフェードアウト。スクリーンに3年後の文字。下手後方から大和、キヤスリン、レベツカ、スーザンが入ってくる。大和は途中でキヤス側を向く。

大和

毎日来ることないじゃないですか。ちゃんと大人しくしてますよ。

キヤス

大人しくしてるだけじゃダメでしょ。反省は?大切なのは殺してしまった人の未来を奪ったことへの気持ちなんだから。その為にもこうして毎日ネチネチ嫌味言つて分からせないかね。

レベ

逆効果じゃないですかね?

キヤス 大丈夫。今なら私の言う事素直に聞けるようになったから。でしょ？

大和 毎日うなされてますよ。

スーザ 安心しな。どうしても罪の意識で押しつぶされそうになったら私が色んな方法で楽にしてあげるから。

大和 それ、シャレにならないやつですよ。

キヤス とはいえ、今日来た理由はちよつと違ってね。アンタも一緒に見たいかなと思って。

大和 え？

キヤス 凜が帰ってくるよ。もうすぐ中継が始まる。

スマホを取り出して、テレビを見るキヤスリン。

スーザ ちよつとキヤスリン、監守がいるんですよ!!

キヤス かんらからから。いーじゃない。ならホラっ！監守さんも一緒に見なさいな。

陸、芽衣、鳴海、ゼロが上手後方から入ってくる。

陸 なんでいっつも僕の部屋なんですか!! 鳴海さんの家の方が広いしテレビだって大きいのに!!

芽衣 堅いこと言いつこ無し！皆、この部屋が落ち着くんだった。

鳴海 そう！この都合によって伸縮される柔軟な部屋なんてそうそうないですよ？

陸 バカにしてるんですか!?

ゼロ どうでもいいがお前達、俺を気軽に呼びすぎじゃないか？殺しの依頼じゃないなら俺はかえ……

鳴海 はい、はい、はいはーい!!そういうメンドいことも言いつこ無し!!だって僕達「友達」……じやないか。

ゼロ お前の言動は9割イラツとするな。

陸 あっ！始まりますよ！

陸、芽衣、鳴海、ゼロ、テレビを見る。

芽衣 うっわ、凄い人!!

鳴海 カメラの数も多いね。

陸 あっ、あれじゃないですか!!あの白い帽子の！

凜、下手から白い帽子をかぶって入ってくる。

キヤス 何よ、ちょっと芸能人っぽくない。

レベ ぽいんじゃないかって、もう立派な芸能人です。

スーザ 今や世界中から注目されてるんですよ!!

ゼロ にしても人の数多すぎやしないか？

芽衣 警備員は足りてるんでしょうね!?

大和 集団心理は怖いですよ。このままだと統制が取れなくなる。

鳴海 これヤバくない!? 段々凜君に近づいてる気がするんだけど!!

陸 あ! 一人抜け出した!

レベ あっちも!!

スーザ こっちも!!

鳴海 ヤバイよ! これヤバイよ!!

芽衣 凜!!

キヤス 早く逃げなさい!! って・・・ん?

全員一瞬間を置いてから、

全員 あゝ!!

蒼真、警棒をもって上手から入ってくる。人を退かす動き。凜の近くまで来て止まる。

凜 遅い！送ったメール届いてないのかと思った。

蒼真 すまない。空港側のセキュリティから信じてもらえなくな。強引に入ってきた。

凜 一応聞いとく。

凜、蒼真の方を向き、蒼真も凜の方を向く。

凜 ……あなたは誰？

蒼真 俺は守り屋だ。……あんたを守りに来た。

BGM。2人、互いに笑う。

後ろにいる人はバンザイやガッツポーズ、ハイタッチなどして幸せそうに笑う。

幸せそうな雰囲気の中、幕が降りる。

— 終 —